

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	銀光

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養疫学	2	後期	選択	いいえ	74

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①栄養疫学は管理栄養士必修科目であり、国家試験資格取得に必須である。内容が幅広く、勉強意欲関心が重要になる。 ②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。予習・復習について説明を行った。 ③授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。 ④授業中の学生たちの勉強意欲を高めるため、授業中の質問や討論を増やした。 ⑤授業中に論文を読み、議論する場を設けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①本試験の成績の平均値は76(±11)点であり、再試験者は0名であった。標準的レベル(概ね70点以上として試験を作成)に達した。 ②昨年度と比べると、本試験の平均点は同じレベルであり、次年度は成績を理想的レベル(平均点80点)まで上げる工夫が必要である。。 ③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は100%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者も100%で、知識理解、思考判断については目標が達成されたと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、管理栄養士必修科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断、態度に関し、目標は達成したが、理想的レベルまでは達していなかった。管理栄養士国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.4で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.4であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.3で、「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.3で低かったことが反省点である。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、講義スライドや説明に力を入れて授業を進めたい。 学生の意見として、テキストが分かりやすかったという意見があり、次年度からは講義も分かりやすいものにしたいと思います。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、態度の面で課題は達成できたが、関心意欲、技能表現の面では課題を残した。今後、栄養疫学の疫学調査法の仕事現場での重要性をしっかりと説明し、学生の関心意欲の向上を目指していきたい。 授業過程を振り返ってみたとき、授業中、質疑応答、発表の時間が少なかったことで、学生の積極的な発言など関心意欲を高めることができなかった。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を増やして、学生の関心意欲を高める努力を行ってきたい。 講義スライド、配布物(授業の参考資料)に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて授業進度と内容説明について改善して行きたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	銀光

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
衛生学	2	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①衛生学は選択科目であるが、国家試験資格取得に必須である。内容が幅広く、勉強意欲関心が重要になる。受講動機を見ると、「資格取得に必要である」50%で、「関心のある内容である」16.7%で、「単位数を確保する」は33.3%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。 ②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。予習・復習について説明を行った。 ③授業で使用する配付資料を丁寧に作成し、よりわかりやすい内容とした。 ④授業中の学生たちの勉強意欲・関心を高めるため、授業中の質問や討論を増す必要がある。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①本試験の成績の平均値は78.0(±6.0)点であり、再試験者は0名であった。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達していなかった。 ②次年度は成績を理想的レベル(平均点80点)まで上げる工夫が必要である。 ③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は100%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者も100%で、知識理解、思考判断については目標が達成されたと考えられる。 ④「図書館、インターネット利用」は非常に少なかったので、今後は課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、選択科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断については目標を達成したが、態度に関しやや達成された。しかしながら、管理栄養士国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.8で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、 学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.6であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.5 で、授業の内容はよかった。また「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.5であった。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、 講義スライドや説明に力を入れて授業を進めたい。 学生の意見として、特になかったが、今後は授業の進めるスピードを調整し、面白い講義にしたいです。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、態度の面で課題は達成できたが、関心意欲の面では課題を残した。今後、衛生学の仕事現 場での重要性をしっかりと説明し、学生の関心意欲の向上を目指していきたい。 授業過程を振り返ってみたとき、授業中、質疑応答、発表の時間が少なかったことで、学生の積極的な発言など関心意欲を高めることができなかった。以上から、 毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を増やして、学生の関心意欲を高める努力を行ってきたい。 講義スライド、配布物(授業の参考資料)に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて授業進度と内容説明について改善して行きたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
加工食品機能論	2	後期	必修	いいえ	89

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①例年どおり受講動機は「必修科目である」に集中しており、「関心のある内容である」は数%にとどまり、大学教育上は決して好ましい状況ではない。授業を通じて、できるだけ受講生の学術的興味と関心を惹きつけるように務めた。 ②教科書を中心にして不足分をプリントで補う形式で授業を進めた。教科書を使うと明らかに受講生の理解、特に、復習時の理解が深まるようである。 ③記憶する要点を明確に示して学習の便宜を図った。 ④管理栄養士国家試験にとってかなりウエイトの重い重要科目であるので、国家試験で重要視されている箇所については、特に時間をかけて解説を行った。 ⑤授業評価を甘くしてしまうと、そのまま国家試験の合格率に大きな悪影響が出てしまうので、決して安易に単位を出してはならず、寛容さと厳格さのバランスのとり方が難しい科目である。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①今年度の結果(昨年度・一昨年度との比較考察を含めて) 本試験合格者は56名(67%)であり、昨年の92名(76%)に劣り、一昨年の53名(50%)を上回った。再試験該当者28名のうち、出席不足で受験できなかった者は3名、受験可能科目数4科目縛りに該当し受験できなかった者は6名で、計9名が受験できなかった(昨年は7名、一昨年は15名)。再試験受験者は18名で、うち9名が合格(合格率50%)した(昨年は28名中24名で86%、一昨年は15名中10名で67%)。最終的に、再試未受験者9名と再試不合格者8名で、併せて17名が再履修となった(昨年は11名、一昨年は28名)。再履修者(3・4年生)の16名のうち3名が再々履修となった(昨年は1名、一昨年は0名)。 ②クラス間差について Aクラスは平均点66.5、標準偏差24.4、秀6名、優9名、良10名、可6名、不可13名でった。一方、Bクラスは、平均点63.5、標準偏差23.3、秀3名、優9名、良7名、可6名、不可15名であり、大差は認められなかった。 ③考察 これまで、本試験の出来・不出来は、試験日程に大きく左右されてきた。今年度は、試験日に他に1科目が実施されており、昨年は当日に他に試験科目なし、かつ、その前日にもにも試験が無かった。一昨年は、今年と同様に試験当日に他に1科目実施されていたことから、今年度ほど達成度が一昨年に近い数値となったと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「卒業必須」かつ「国家試験受験資格取得に必須」であり、受講生は仕方なく受講することになり、受講生の意欲をどう醸し出すかの動機付けに苦慮する面がある。この課題に応えるように工夫し(就職後にどう結び付くかの解説を必要に応じて加える)、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から見て「知識理解」「思考判断」「意欲関心」について十分満足いける結果が得られた。また、例年に比較して、成績が良いことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①例年、「話すスピードが早い」との評価が多く、十分に注意して「ゆっくり明確に話すよう」心がけた。 ②昨年度の反省をもとに、今年度の新たな試みとして、食材や加工食品、加工機器の写真をスライドや動画で見せた結果、理解度が向上した。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	①基礎科目のなかでも「食品学」や「調理学」をベースにした応用に近い本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。 ②授業で取り上げる「加工食品」の種類についてもう少し幅を広げる時間が必要である。講義内容が膨大であるので、四年次の国試対策の授業で対処したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品衛生学	2	後期	必修	いいえ	81

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①例年どおり受講動機は「必修科目である」に集中しており、「関心のある内容である」は数%にとどまり、大学教育上は好ましい状態ではない。授業を通じて、できるだけ学術的な興味と関心を惹きつけるように務めた。 ②昨年度までと同様、教科書を要領よくまとめたプリントを中心に授業を進めることによって理解を深め、記憶する要点を明確に示して学習の便宜を図った。 ③管理栄養士国家試験にとってかなりウエイトの重い重要科目であるので、国家試験で重要視されている箇所については、特に時間をかけて解説を行っている。また、授業評価を甘くしてしまうと、そのまま国家試験の合格率に悪影響が出てしまうので、決して安易に単位を出してはならず、寛容さと厳格さのバランスのとり方が難しい科目である。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①今年度の結果(昨年度・一昨年度との比較考察を含めて) 本試の受験者73名のうち合格者は49名(67%)で、昨年の96名受験/合格者86名(90%)よりも劣るが、一昨年の合格者38名(42%)、その前年の51名(46%)に比べると大きく上回った。再試験受験者16名のうち10名が合格(昨年は7名受験6名、86%合格、一昨年の再試験合格者は38名、91%、その前年は51名、80%)であった。再試験は、受験可能科目数4科目縛りに該当し受験できなかった者が3名であった。最終的に、再履修該当者は12名(退学者と休学者を除く)であった(昨年は、再履修者が6名、一昨年は22名であった)。再履修者(3・4年生)8名のうち、合格者4名、出席不足で受験できなかった者3名、試験日時を誤って受験しなかった者1名であった。 ②本試験でのクラス間差について Aクラスは、平均点61.8、標準偏差20.4、秀1名、優7名、良7名、可6名であった。Bクラスは、平均点58.1、標準偏差26.4、秀0名、優5名、良18名、可5名で、やや差が認められた。 ③本試験の出来・不出来は、これまで、試験日程に大きく左右されてきた。今年度は、試験日に、他に2科目が実施されていたが、昨年度は、試験日には他の科目が実施されていなかった。一昨年は、試験日に、他に1科目の試験が実施されていた。明らかに、その影響が成績に大きく影響したことが伺えた。本科目は、難易度の高い科目であるが、例年に比べ今年度の合格率は高く、理想的レベルに達していた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「卒業必須」かつ「国家試験受験資格取得に必須」であり、受講生は仕方なく受講することになり、受講生の意欲をどう醸し出すかの動機付けに苦慮する面がある。この課題に応えるように工夫し(就職後にどう結び付くかの解説を必要に応じて加える)、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から見て「知識理解」「思考判断」「意欲関心」について十分満足いける結果が得られた。また、例年に比較して、成績が良いことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	配布物が多いため、配布された順番がわからなくなる学生が観られたので、この点を改良した。具体的には、配布物に配布した順番を示す番号をつけて、配布物一 覧表を、授業開始時にシラバスと併せて配布して対応した。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	①基礎科目のなかでも重要なものにあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。 ②「食中毒」と「食品添加物」についてもう少し理解を深めさせるための時間が必要である。講義内容が膨大であるので、四年次の国試対策の授業で対処したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品の官能評価・鑑別論演習	2	通年	選択	いいえ	48

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機は、国家試験関連科目とは異なり選択科目であることから「関心のある内容である」が比較的に高く、大学教育としては好ましい。 ②演習を主体に実施したので、実験班を構成して授業を行った。AクラスとBクラスの混成で班を構成したが、最初はチームワークが円滑に進まなかったものの、次第にうまく行くようになった。 ③授業項目ごとに、ほぼ全回、ショートレポートを課すことによって、随時、授業の要点を会得できるよう便宜を図った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価 授業内容を楽しんでやっている姿が認められ、好ましい状況であった。 ②今年度の結果 実験最終成績の平均値は86.8点、標準偏差11.5で、全体に質が高かった。出席不足で2名が単位取得できなかったが、再試験対象者は無かった。90点以上の秀評価23名、優15名、良5名、可1名で、理想的なレベルに達している者が82.6%と、良好な結果であった。 ③学生による授業評価 「到達度自己評価」、「授業の質」双方の評価が高く、特記すべき点はない。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は演習科目で、選択科目である。学習の動機が妥当であり、学生も一定レベル以上の良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から「知識理解」の達成度が高かったことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「参加する機会が作られていた」の「授業の質」評価が高い。
---	-------------------------------------

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	成績評価を鑑みると、基礎的知識の形成については概ね達成できた。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品流通・消費論	2	後期	選択	いいえ	49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①資格取得を目的とする教科であるため、テキストに沿った内容を中心に授業計画を立てた。当該科目は、「食」に関わる流通、マーケティングさらには食糧消費についてなど社会状況に密接した科目である。その為、現在の状況を反映させながら、授業を行うことを心がけた ②学生の受講動機は「資格取得に必要である」61.9%となっており、資格試験必修教科であることから予想に沿った結果であった ③マーケティングや流通に関する内容は、他教科で重複することがないため、当該科目で重要な点を把握できるように、また資格試験のための学習時に役立つことにも重点を置いた
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績評価 最終的な成績の平均値は82点であり、再履修対象者は1名であった。受講者全員が標準レベル達しており、そのうち理想的レベルに達した者（80点以上）は63.2%（30名）であった。 ②授業アンケート結果 「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「さまざまな課題を検討する力を得ることができた」「的確に判断する力を得ることができた」の項目では、受講者全員が「まあまあそうだとおもう」～「かなりそうだと思う」を回答していたが、平均値3.4と他の教科と比較すると、低いように感じた。次年度は、学生自身が理解力、判断力を得たと感じられるよう、講義の進め方などの検討を進めたい					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性 本科目は「専門基礎分野」に配置されている科目である。「食」に関する流通、マーケティングの取り組み、さらには食糧消費の実態について学ぶ科目であり、学生も一定の成績を収めている。また、受講動機で最も多かった「資格取得のため」の観点からみても、資格取得のためには最も基礎的かつ必要な知識であることから、内容的にも妥当であったと考える。 ② DPからみた内容の妥当性 成績評価から受講者全員が標準レベルに達しており、本教科に関する基礎的な知識が身にについていると判断されるため、内容的にも妥当であったと考える
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、 学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.1と最も低かった。資格試験 必須の科目というイメージが強いが、当該教科に関連するテーマを設定し、 グループワークなどを取り入れることなどを積極的に授業に参加できる事 を今後検討したい。それによって「コミュニケーションや表現力を高める こと」や事後学習にも繋がると考える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	受講者全員が標準レベル達しており、そのうち理想的レベルに達した者 (80点以上)は63.2%(30名)であったことから、学生の目標達成に 関しては達成できたと評価できる。しかしながら、学生の自己評価や 授業の質の評価は「まあまあそうだと思う」に集中していることから、 授業の進め方や学生が積極的に授業に参加する形を取り入れる等 を検討したい。事前事後の学習状況も0回と回答する学生が多いため、 資格試験合格に繋がることを自覚させるよう促していきたいと考えて いる。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	相良 かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康情報処理実習	2	後期	必修	いいえ	81

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は2年次後期必須の実習科目で履修生は79名である。従って受講動機は必須科目である97%、資格取得に必要である16.4%であった。 授業の実施にあたり大切にすることは、卒業後の利活用を想定し、卒業にも役立つテキスト(化学同人の「わかる統計学 健康・栄養を学ぶために」松村康弘・浅川雅美著)を選定し、データを入力することで推測統計が可能となるExcel教材を準備し、栄養調査・分析に必要な統計処理の課題を設定したことである。 昨年2017年度より、学生の学力に合わせ、また2年後期開講の時間割上、授業外で予習・復習する時間のない状況が続くため、推測統計の割合を減らし、記述統計の割合を多くし、テキストの例題を時間をかけて行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	評価割合は次の通りである。なお、()内は2017年度、2016年度の割合である。 A:7%(4%,1%) B:7%(19%,8%) C:28%(27%,31%) D:26%(30%,42%) E:8%(12%,16%) 授業評価の到達度自己評価は以下の通りである。 1と2 :4と5 3%(14%,26%) :25%(28%,8%) (2) 知識を確認、修正したり、新たに得ることができた 3%(20%,31%) :20%(5%,19%) (4) 自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることが出来た 1%(19%,36%) :26%(21%,5%) (5) 自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた 3%(16%,32%) :32%(4%,21%) (7) 自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた 4%(18%,23%) :30%(14%,19%) (8) コミュニケーション力や表現力を高めることができた。 本科目に関連するDPの達成度自己評価において、1と2の評価割合が5%以下であることからDPの達成目標はやや達成されたと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は専門教育分野に属し、CPは、「臨床栄養、栄養教育、給食経営管理、公衆栄養などに関する専門教育科目を習得した後、病院・福祉施設・学校給食・保健所などにおける『臨地実習』を実施し、実践的な能力とともに社会人としての基礎的な能力を養う」となっており、本授業の内容は妥当であると考えている。 一方、本科目のシラバスに記載の行動目標4項目について学生の自己評価では、「できる」、「メモやテキストを調べればできる」、「全くできない」の3段階評価で「全くできない」と回答した学生の割合は以下の通りであった。 12%(4%) (1) アンケート調査の一連の流れを説明できる 12%(8%) (2) データの種類について説明できる 20%(23%) (3) 仮説検定について説明できる 22%(16%) (4) 栄養学研究で得られたデータについて、適切な統計的処理方法が選択できる 昨年に比べて「全くできない」と回答した学生の割合が増えていることから、学生にとっては難解な内容だったと考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年同様に演習課題を減らし、授業時間内で出来るようにし、提出期間を授業時間外で仕上げられるように余裕を持って設定したが、上記のように行動目標について「全くできない」と回答した学生は昨年に比べ仮説検定以外は増加しており、数学の苦手な学生が増加していると考えられる。 実際、自由記述において回答者60名中「説明が分かりづらい」、「質問しにくい」、「先生が窓の外をみて質問に気付いてくれない」「助手の先生と話していて質問できない」との悪意のある記述が4名、行動目標4項目すべてに「出来ない」と回答した学生が4名おり、彼女達は授業が全く理解できず苦痛だったのではないかと思う。 更に2018年度より新カリキュラムとなり記述統計を学ぶ「現代社会と統計」の科目が閉講になったことから、2019年度の本科目は大幅に見直し、記述統計学だけでも理解できるように学力の底上げを目指す予定である。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	以上の分析結果よりおおむね目標は達成したと考える。 しかしながら、近年の管理栄養士国家試験問題において、記述統計の知識を問う問題や、問題文から数式を立てる問題が出題されるようになってきた。 一方、カリキュラムの変更に伴い記述統計を教える科目「現代社会と統計」がなくなった。 そこで学習意欲の希薄な2年生対象ではなく、臨地実習を終え、食事調査法の手順および統計処理の必要性に気付く3年後期または、国家試験対策に真剣味の増す4年前期に開講するのが妥当ではないかと思う。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
微生物学実験	2	後期	必修	いいえ	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機は例年と変わりなく「必修科目である」にほぼ集中しておち、「関心のある内容である」は極めて低いレベルに留まっているのは大学教育としては望ましくない状況である。授業を通じて、できるだけ実験内容に学術的興味と関心を惹きつけるように努めた。 ②例年同様、実験班のチームワークが円滑に進むような人員配置になるよう配慮することによって各自の理解を深め、臨機応変に課題やレポートを課すことによって要点と技術を会得できるよう便宜を図っている。 ③管理栄養士国家試験にとって重要科目である「微生物学」と「食品衛生学」を体験的に学ぶための科目であり、卒業後の勤務先で必要となる知識や技術を習得するための科目であり、その点に気を配りながら授業を進めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された			達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価 一般社会に出ても通用するような文書作成能力を身に付けてもらうために、実験レポートを国際基準に従って書くよう指導している。この実験レポートの提出が2回あるため、受講生にとって、大きな負担となるが、反面、その効果(文書作成能力の向上)は著しいものがある。今年度も、受講生は期待どおりの成果を残した。 ②今年度の結果(前年との比較考察も含めて) 実験最終成績の平均値は77.8点(昨年は75.8点、一昨年は87点、その前年は78点)であり、再試対象者は1名であった。90点以上の秀評価19名(昨年は13名一昨年は52名、その前年は24名)、80点以上90点未満の優評価14名8昨年は14名、一昨年は12名、その前年は14名)と、理想的なレベルに達している者が47.1%(昨年は31%、一昨年は69%、その前年は35%)という結果であった。 ③クラス間の違い 平均点はAクラス77.4点、Bクラス78.1点で大差なし。標準偏差は、Aクラス13.5、Bクラス17.2と、僅かな差があった。 ④学生による授業評価 「到達度自己評価」、「授業の質」双方の評価において、例年どおり高評価であり、特記すべき点はない。「毎回の実験に興味を持った」という趣旨のコメントがあり喜ばしい成果であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は実験科目であり、「専門基礎科目」である「微生物学」「食品衛生学」をサポートする位置にあり、管理栄養士の職場において必修となるものである。学習の動機付けは容易であり、学生も一定レベル以上の良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から「思考判断」「技能表現」ともに達成度が高かったことと、昨年度課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「参加する機会が作られていた」の「授業の質」評価は例年どおり高い。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	基礎実験のなかでも重要なものにあたる本科目の位置づけから、成績評価を鑑みると、基礎的知識と技術の形成については概ね達成できた。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎栄養学Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①基礎栄養学Ⅱは、カリキュラムの中では選択科目となっているが、前期の基礎栄養学Ⅰ(必修科目)に続く後半を講義する科目なので、全員に履修するように指導し、実際に全員が履修している。ただ、管理栄養士国家試験の受験資格には必修であることを最初の授業で伝えているにもかかわらず、「資格取得に必要である」と答えたものが昨年同様に低かった(今年19.6%、昨年17.5%)。今後とも管理栄養士国家試験の受験資格の取得に必修であることを強調し、受講に対するモチベーションが高まるように努力したい。また、「関心のある内容である」と答えたものは、昨年より若干増えたもののわずか6.5%であった。栄養学の基礎的知識が、管理栄養士の実践の場でも重要であることを、できるだけ具体的な事例を挙げて説明していきたい。 ②授業の最初に学習準備のため、オリエンテーションを行ない、授業計画表を配付した。 ③授業で使用するパワーポイントの資料は、毎年、一部を改訂し、よりわかりやすい内容になるように努めている。 ④後期の中頃に確認テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。 ⑤授業内容を予習・復習するための練習問題および、分野別に分類した国試過去問約5年分とその解説を配付し、予習復習の助けとなるようにした。学生の要望に応じて、配付時期を例年より早めて11月とした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験成績のA、Bクラス合同の平均点(100点満点)は、84.2点(±8.3)で、昨年(81.0点)よりやや好成绩であった。成績の内訳は、A(90点以上)が21名、B(80～89点)が33名、C(70点～79点)が10名、D(60～69点)が2名であった。本試験不合格者(D:60点未満)は3名(そのうち試験欠席1名を含む)であった。本試験不合格者3名のうち、1名が再試験で合格し、2名が再試験の手続きをしなかった。昨年と比較すると、成績優秀者(80点以上)が増加(64%→78%)し、全体的に高得点側にシフトしていた。 授業評価アンケートの「到達度自己評価」では、(8)「コミュニケーション力・表現力」および(9)「職業倫理・行動規範」を除くすべての項目で平均点が3.5点以上で昨年度に比べ高い評価であった(昨年はすべての項目が3.1～3.3)。特に、項目(6)「専門分野の的確な判断力」については、3.6と高評価であった。(8)、(9)についても、それぞれ3.2、3、4と昨年よりは高評価であった。 以上の結果より、試験成績も併せて考えると、概ね教育目標を達成できていると考えている。 「学習量の評価」では、30分以上の復習を1回以上実施している学生が約30%と昨年(18%)より増加していた。今年度は、練習問題、管理栄養士国家試験の過去問題などの復習課題を、比較的早期に配付したことが、自学自習を促したと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門基礎分野」の選択科目であるが、授業準備の項でも述べた通り、基礎栄養学Ⅰ(必修科目)と連続した内容の科目なので、全員が履修するように指導している。基礎栄養学ⅠおよびⅡの内容は、国家試験に多く出題される分野であり、その重要性は学生にしっかり伝えている。期末試験の成績も良好であることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 本科目のDPである「知識理解」(DP1)および「思考判断」(DP2)の成績は昨年に比べてもおおむね良好に維持されていることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上より、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」において、すべての項目で昨年より高得点(昨年3.1～3.3→今年3.4～3.6)であった。また、例年評価の低い項目(4)「授業中の学生の発表・参加」、 (5)「学生からの質問の受付とそれに対する回答」についても、昨年に比べて0.3ポイント高得点であった(3.1→3.4)。これは、授業の最後に練習問題を出して、学生 に解かせ、答えさせ、質問させる時間を設けたことが好評価につながったものと思われる。以上、学生の成績と併せて判断すると、授業の目標はおおむね達成でき たのではないかとと思われる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	期末試験の成績および到達度自己評価からみて、基礎的知識の形成については概ね達成できていると思われる。これからは、基礎的知識を実践現場に活かせる ように、できるだけ実際の事例に関連付けながら講義を進めていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用栄養学Ⅰ	2	後期	必修	はい	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①応用栄養学Ⅰは、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が98.3%であることは当然の回答である。「関心のある内容である」が11.9%と低いことに関しては、学生の関心をひきつけるような講義の実施が出来なかったことも推察されるため、講義内容の見直しも図りつつ、続く応用栄養学Ⅱの講義に関心をもって臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある。 ②これまでと同様、スライド資料を配布し、その資料には、板書を書き写すためのスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。また、毎回の授業終了前に、その日の講義の復習小テストを行い、解説して、提出させている。その小テストには、授業理解度を%で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見や質問が記入されており、それに必ず返答して返却するよう努力している。その結果、学生たちが意欲的に講義に臨む姿勢がうかがえた上、「興味ももてる内容であった」「楽しく講義を受けた」というコメントもあった。テスト、授業理解度の自己評価に関しては今後も続けていく予定である。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果はA,Bクラス72名の受講生中、A(秀)が2.7%と低めで、B(優)が23.6%であり、C(良)が26.4%であった、D(可)が23.6%と優と同率で、不可の学生も23.6%ととても多かった。クラス別比較すると、Aクラスに不可の学生が多く、クラスのレベルによる授業進行の配慮も必要になることも考えた。また、DP4(態度)やDP5(技能・表現)に関しては、小テストへの取り組みや、レポート以外の提出物にて評価をおこなった。受講生全員が標準的レベルに達しており、少ないが2.7%の学生が理想的レベル(今回は秀90点以上として試験を作成し評価した)に達していた。理想的レベルの学生は、まだまだ限られてはいるが、受講生の多くに、受講に対する意欲の高さはうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断および意欲関心に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、約58%の学生が予習および復習を一度もしていなかった。シラバスを活用し、予習・復習を促すことは実施したが、他の教科の課題との関連もあり、学習時間を設けることが難しいことが考えられるため、学修時間の確保に関しては学科全体で検討していく必要がある。またこれからも小テスト返却による復習の促しを続けていきたいと考えている。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生が少なかった。特に図書館の利用に関しては、自主的学修のためにも学生に勧めていく必要性がある。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また基礎栄養学とともに、管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の1つに位置している。また、専門基礎科目から専門科目へのつなぎの科目(基礎から専門への入り口科目)でもあったと考える。このことから、受講動機の「必修科目である」が98.3%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価では、約58%の学生が予習、復習を一度もしていないと回答した。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にしなかった学生は63%と高かった。必修科目であるため、シラバスを参考にしなくとも、本科目の履修は卒業条件だというのが学生たちにあると考えられる。また、講義の初回にシラバスを配布し、一緒に目を通しているため、その後にシラバスを参考にする必要がなくなったことも考えられる。今後は講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していき、常にシラバスを参考にするように促していく。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促した、昨年度に比較すると予習・復習を実施した割合が上がっているため、今後も同様の方法で予習・復習を促していく、さらに、予習・復習課題の作成を検討していく。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、かつ、専門基礎科目から専門科目へのつなぎや入り口にあたる科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。これからも講義時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。今回の授業評価の提出率は83%と低く、提出率の向上のための対策も必要と感じた。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
運動・環境と栄養	3	後期	選択	いいえ	88

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	運動(身体活動)に必要な栄養摂取の在り方や、運動時に体内で起きている栄養代謝の変化とそのメカニズムを学び、身体活動を活発にすることが、結果として我々の疾病予防や健康維持・増進にいかに関与するかを理解する。また、心身を取り巻く、ストレス、生活リズム、高温・低温、高圧・低圧及び無重力環境などの環境因子が身体へどのように影響を及ぼすか、その栄養とのかかわりについても学習する。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	教育目標の達成度は、マークシートによる選択問題と記述式の問題を併用した試験により判定した。選択問題の出題レベルは、管理栄養士国家試験レベルの問題とした。本試験の合格者は87名中70名で不合格者は17名(うち1名は追試験)であった。本試験の平均点は69.0±12.7点であり、2名が秀(90点以上)、14名が優(80点～89点)、29名が良(70点～79点)、25名が可(60点～69点)であった。追・再試験では、2名の試験欠席者を除き全員が合格した。昨年に比べ、記述式の問題が加わったこともあり、本試験の平均点が低かったが、再試験の平均点は76.9±8.1と上昇し、受験者全員が合格しているので、知識理解、思考判断に関する目標はほぼ達成されたと考えられる。学生自身の意欲関心についても、アンケートの到達度自己評価では、「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な評価が98%以上あり、この科目についての教育目標は達成されているものと判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、応用栄養学分野の、運動および環境因子と栄養に関するトピックを抽出し、運動に関してはより実践的な知識と技術を身につけることを目指している。管理栄養士国家試験の受験資格取得に必要な科目であること且つ必須科目であることから、学生の講義に対する姿勢や、学習到達度自己評価も肯定的な意見が多いことから、内容は妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のすべての項目において「まあまあと思う」以上の肯定的意見が96%以上であり、平均値も昨年より各項目で0.1～0.2ポイント上がっていた。本科目は3年次開講科目であることから、より実践的で身近な内容を多く取り入れることで、能動的な学習活動に結び付けていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	知識理解度及び思考判断、意欲関心について、大部分の学生が標準的レベル以上に達したものと判断できることから、概ね目標を達成できたと考える。学習量の評価において、予習・復習を全く行わなかった学生が7割もいたことから、意欲から行動に結びつくような動機づけ、予習・復習の課題提示などを考えていく必要がある。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	田路 千尋

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養教育論Ⅰ	2	後期	必修	いいえ	74

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講の動機は、「必須科目である」98.4%、「資格取得に必要である」17.2%が大半を占める本科目は、資格取得における必須科目である。できるだけ各テーマごとに復習問題を出し、関心を引き付けるように努めていたが、「関心がある内容である」の割合が低く、今後の課題である。 ②テーマごとに確認問題を行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。 ③本科目は、専門分野であるために学生の興味の有無が分かれると思われる。今後も学生の興味を引き付ける内容となるよう努めていきたい。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的には成績の平均値は85(±7)点であり、再試験対象者は、0名であった。全員が標準レベルに達したが、点数にばらつきがみられ、理解度の差が生じた。 目標別にみると、知識理解と思考判断に関する問題はどちらも90%以上であった。 学生による授業評価に関しては、「自分なりの目標を達成した」、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野の課題取得、意欲を持つ等」の項目の回答もほぼ全員から得られており、目標は概ね達成できたと考える。 「学習準備性」「学習量の評価」等で、学生が意欲的に取り組んでいる者の割合が低く、課題を出すなど次年度にむけて検討したい。そのことにより、図書館等を利用割合も増加することを期待する。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、必須専門科目である。準備性の項で述べたように確認テストを実施し、学生の理解度を把握しながら授業を進めている。2回生から履修する科目のため、教科書に記載の内容を習得することに加え、この科目を学ぶ重要性を理解させることもまた必須である。そこで、国家試験に直接関わる内容であるという意識喚起を目的として、国家試験において出題頻度が高い用語や知識についてはその旨を強調するような工夫をし、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から標準偏差にバラツキは見られたものの、知識、意欲関心に関する達成度は比較的高く、本科目の内容的には妥当であったと考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、授業の予復習時間が想定より少なかったことは、反省点である。次年度にむけては、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、課題を出し、検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。 学生の意見として、「配布資料の書き込むスペースが少ない」というものがあった。これは今後改善していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	必須科目である本科目は、学生による授業評価に関し、自分なりの目標を達成し、知識を確認、修正したり、新たに得ることができ、自分が学ぼうとしている専門分野の課題取得、意欲を持つ等の回答もほぼ全員から得られており、教育目標は概ね達成できたと考える。 次年度に向けての検討項目としては、「学習準備性」「学習量の評価」等で、学生が意欲的に取り組んでいる者の割合が低いことから、毎回テーマごとのねらいを具体的に示すこと、可能な限り考える時間をとるか、予習復習課題を提示するようにすることを加えていきたい。また、学年により意欲的に取り組む傾向に違いがあると考えるため、その学年に合った授業展開を検討していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	坂巻 路可

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床栄養管理学	2	後期	必修	いいえ	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	2年後期になって、実践が問われる専門科目の履修が増加し、特に医学的知識が問われるようになってくる。チーム医療の一員として栄養士、管理栄養士に必要な臨床的な医学知識および考え方を修得できるよう心がけた。また、昨年度に続き、授業の最後に小テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習の進捗状況を確認するようにした。授業で使用するスライドのレジュメについては、昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本試験受験者の成績の平均値は82(±9)であり、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは60%を超えた。 学生による授業評価においては、回答者の91.2%が自分なりの目標を達成し、学びを深めたいと意欲を持つことができたと回答し、また、94.1%が新たな知識を得ることができたと回答している。今後とも、わかりやすいスライド、資料、授業に心がけるとともに、授業後の小テストを続けていきたいと考える。 以上から、教育目標は達成されたと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門分野科目」であり、専門応用科目に相当する必修科目である。国家試験の臨床栄養学分野で多く出題される内容であり、重要性は学生に十分に伝えている。定期試験にて一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均値が3.2、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が3.2であった。学生の成績を踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。期末試験に関するアナウンスについて、また配布物(授業のスライドのレジュメなど)に関しては、学生の意見を取り入れ、改善に努めたい。次年度に向けて、さらに知識を深める努力をするとともに、質問がもっと増え、学生がより積極的に授業に参加できるよう授業の進め方を検討していきたいと考える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	専門分野科目にあたる本科目の位置づけから、臨床栄養学的知識の形成については達成でき、思考判断の面でも課題は達成できた。 授業過程を振り返ってみたとき、授業の最後に復習・確認の小テストを行ったことで、学生が検討を加える時間できた。更に、次年度に向けて予復習課題の効果的な提示の仕方について、検討を行いたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養治療学Ⅱ	3	後期	必修	いいえ	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では、傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うために、各疾患の成因・病態、治療法ならびに具体的な栄養管理方法について修得することを目的としている。また、疾病別栄養管理の知識に加え、臨床における管理栄養士の役割について理解し、健康維持・疾病からの回復に大きな役割を期待されていることを認識した上で、管理栄養士としての資質を身につけることも目標に掲げている。 本科目は卒業必修科目であり、かつ、管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、殆どの学生の受講動機は『必須科目である』との理由である。にもかかわらず、授業準備性について、十分とは言いがたく、受講後の復習も不足していた。栄養学科3年後学期は学外実習が始まる時期であることから、学生は多忙を極め、事前事後学習の時間が十分に確保できないのが現状である。しかしながら、このような状況の中でも、本科目の目標達成のためには、事前事後学習を進めることは必要であり、次年度以降、現行の確認テスト以外に、何らかの課題を提示することにより、事前事後学習に対し、より強化したいと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の本試験成績の平均値は66.7(±10.4)点であり、昨年度71.4(±10.4)点よりもやや低い得点であった。また、本試験合格者は全体の80%であり、成績の平均値同様、昨年度(91%)よりも顕著に低かったことに加え、例年と同じく、標準偏差が大きかったことから、学生の修得状況には個人差が大きかったものと思われる。実際には、34名(38%)が標準的レベル(70%以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は7名(8%)であり、昨年の結果に比し、試験結果同様、減少した。本科目の講義および試験の内容については例年と比較して、特段変更した点はなかったものの、全体的に成績が低下していたことに対しては、早急に対応すべきと考える。本科目では2016年度より、確認テストの導入を行っており、2017年度教育効果が上昇した一端を担ったものと推察された。しかし、2018年度においても、確認テストは継続したものの、全体的に評価が下がった。確認テストは各授業回の内容に関連した管理栄養士国家試験問題を10～20問程度、○×形式で回答することとしており、これまでは学生の自発的学習に期待し、提出を義務付けしておらず、特に2018年度の提出は低い状況にあった。そこで、2018年度の結果を踏まえ、2019年度からは確認テストの提出を義務付ける等、対策を検討したいと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、26問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。このことは、学生の達成度自己評価の『職業倫理や行動規範』『職業選択』の項目において、ほとんどの学生が『参考になった』と回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。また、『知識の確認・修正』や専門分野の『課題を検討する力』『的確に判断する力』『学びを深めたいという意欲』においてもほぼ全員が『達成できた』と回答していたことから、内容的妥当性については問題ないものとするが、次年度以降、より一層の専門的知識および技術の修得を目指す所存である。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目では板書での記録としているため、80%以上の学生が『自分なりのノートを作成した』との回答であった。ノートを作成することにより、講義内容の整理ができ、かつ、理解も深まるものと考えられ、板書での記録は今後も続けていきたいと思う。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、26問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておくべき内容である。学生の達成度自己評価では『知識の確認・修正』や専門分野の『課題を検討する力』『的確に判断する力』『学びを深めたいという意欲』『職業倫理や行動規範』『職業選択』において、ほとんどの学生が『達成できた』との回答であり、講義内容等についての問題はないものとする。今年度に引き続き、次年度以降も確認テストの実施し、学生の的確な知識の定着に加え、その理解度を量ることにより、学生の気づきを促し、さらには、自発的学習へと繋げたいと考える。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床栄養活動論	3	後期	選択	いいえ	87

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では、傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、これまでに修得した栄養教育の知識や技術を基礎として、栄養ケア計画の作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育について修得することを目標としている。加えて、臨床における管理栄養士の役割について理解し、健康維持・疾病からの回復に大きな役割を期待されていることを認識した上で、管理栄養士としての資質を身につけることを目的としている。そのため、現在、医療の現場で活躍されている病院管理栄養士や医療に関する法律の専門家等を特別講師として招聘し、第一線の臨床の場での管理栄養士の活動ならびにチーム医療での管理栄養士の役割をより深く理解する。また、将来、医療の場で活躍する場合に必要な知識を広く深く学ぶとともに、医療人としての心構えを培う。 本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、約90%の学生の受講動機は『必須科目である』であり、約40%は『資格取得に必要である』との理由であった。また、学修準備性については、実習の事前事後課題等もあったことから、60%以上の学生が予復習時間を確保していた。しかしながら、自発的学習に取り組んだ学生は約10%程度と少なく、2017年度の30%に比べて、著しく減少した。このことは、栄養学科3年後学期は学外実習が始まる時期であることから、学生は多忙を極めていることに加え、授業の課題に取り組むことに精一杯であったためであり、実際、課題以外に学修に取り組めなかった理由として、本理由が挙げられている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の本試験成績の平均値は77.3(±7.9)点であり、本試験合格者は全体の96%であった。実際には、36名(43%)が標準的レベル(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)も36名(43%)であった。2017年度以前は事前学習・事後学習のための2種類のレポートを課し、これらのレポート内容にて、評価を行っていたが、より学生の学修の成果を反映すべく、2018年度は試験、事前・事後学習のためのレポートおよび授業貢献度として、講義内での発言、講師からの質問に対する回答等、講義に対する積極的参加について評価することとした。そのため、授業の質評価として、『評価基準』『学習の範囲や課題』についてはいずれも全学生が明らかとの回答であった。また、本科目を受講するに当たり、事前・事後の課題が課せられていたことも一因と思われるが、60%以上の学生が予復習時間を確保しており、授業の参加ならびに振り返りに対し、積極的に取り組んでいた。また、図書館およびインターネットの利用も認められ、本科目に対する学修準備性の高さが窺え、これらのことが学生の成績へと表れたものと推察される。これらのことは、学生の到達度自己評価においても同様の結果を示しており、95%以上の学生が専門的知識および技術の修得を得ることができたと回答していた。以上のことから、本科目における教育目標は達成できたものと予想される。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであり、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかねばならない知識の一つである。現在、医療の現場で活躍されている病院管理栄養士や医療に関する法律の専門家等を特別講師として招聘し、医療施設におけるチーム医療と管理栄養士の活動の実際を学ぶことにより、管理栄養士に必要な栄養ケアの知識やスキルを深めることを目標に掲げている。このことは、学生の達成度自己評価の『職業倫理や行動規範』『職業選択』の項目において、全学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。また、『知識の確認・修正』や専門分野の『課題を検討する力』『的確に判断する力』『学びを深めたいという意欲』においてもほぼ全員が『達成できた』と回答していたことから、内容的妥当性については問題ないものとする。後学期終了後、本科目履修学生は臨地実習Ⅱ(臨床栄養:病院)での学外実習を控えており、本科目が臨地実習Ⅱに対する動機づけならびに専門的知識・技術修得の重要性に対する気づきにもなったものと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったことに加え、自由記述として『実践的で知識がとても身についた』『説明もわかりやすかった』との肯定的意見も見受けられ、本科目の内容等についての課題はないものと推察され、今後も引き続き、高い達成度を目標にしたいと考える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであり、学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておくべき内容である。本科目の特徴は、現在、医療の現場で活躍されている病院管理栄養士や医療に関する法律の専門家等を特別講師として招聘し、医療施設におけるチーム医療と管理栄養士の活動の実際を学ぶことであり、3年次後学期終了後の臨地実習Ⅱ(病院)とも直結していることにある。学生は本科目の学修準備性として、予復習時間の確保ならびに積極的な学習の取組を実現したことにより、約90%の学生が標準的レベル以上を達成した。また、学生の達成度自己評価では『知識の確認・修正』や専門分野の『課題を検討する力』『的確に判断する力』『学びを深めたいという意欲』『職業倫理や行動規範』『職業選択』において、ほとんどの学生が『達成できた』との回答であり、講義内容等についての問題はないものとする。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	中村 貴志

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
介護概論	3	後期	選択	いいえ	84

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	今回の受講動機をみると、「必修科目である(70.0%)」と「資格取得に必要である(37.5%)」が高く、一方「関心のある内容である(2.5%)」は低い値であった。昨年度よりさらに、授業への関心は低下しているため、できるだけ具体的な事例、新聞記事、ビデオ教材を用いることで、授業に対する関心を持てるように引き続き改善していきたい。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績では9割以上の受講学生が80点以上であり、介護の基本的な考え方や介護現場の課題は理解できたものと判断した。学生による授業評価においては、各項目の平均点はすべて3.4であった。傾向は昨年度とほぼ同様で、各項目の得点間にバラつきはなかった。今回の目標達成状況の改善が「意欲関心」の向上につながるように、さらに授業の工夫を行いたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業への「意欲関心」の低さに苦慮する面があったが、学生は一定の成績をおさめていること、到達度自己評価も全般的に高かったことから、昨年と同様に内容的は妥当であったと判断した。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、昨年度と同様の傾向だった。講義系科目で、授業回数は1単位分の8回と限界があるが、引き続き可能な範囲で、学生の発言の機会や学生同士の意見交換ができる場面を設定するなどの改善を行いたい。また、「予復習時間」や「図書館利用」がかなり少なかった。この理由として、昨年と同様に「授業への動機づけが低い」ことがあげられる。また、学生にとって、時間的・内容的にも取り組みやすい課題を設けるなど、引き続き、学生の主体的な取組みを促したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「知識理解」と「思考判断」については、概ね達成できたものと判断している。今後も、「意欲関心」を高めるために、可能な範囲で学生の発言の機会や学生同士の意見交換ができる場面を設定するなどの改善を行いたい。また、自由記述の中には、現代社会の(介護)問題の現状を知ることができた」との意見もあることから、「栄養」や「管理栄養士の働き」と関連づけて、授業の内容についての図書館の利用など主体的な学びを促したい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	境田 靖子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆栄養学Ⅰ	2	後期	必修	いいえ	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、公衆栄養学領域で入学後初めて受講する科目であるため、第1回目の講義の際に授業目標と臨地実習の要件科目であることを説明しているが、履修動機としては①必修科目であること100%以外に、②資格取得科目であることへの理解が低い(13.6%)が、栄養学科の場合は栄養士免許資格科目は、ほぼ卒業必修科目であるため、2項目の違いはないものと考えられる。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の最終的な成績の平均値は69.6(±18.5)、再試験対象者は全体の20.8%であったので、学生が標準的なレベルを達成した学生は約8割であった。目標別のDP到達度においても、DP1(事象を理解する視点)が98.9%、DP2(課題を検討する力)が98.9%、DP3(学びを深めたい意欲)が100%と、全員が到達したと言える。 本科目が開講される2年後期から、専門科目の履修がそれまでと異なり飛躍的に増え、実験・実習科目が多く、学生の自由記述からも「時間が作れない」「時間が無い」との意見があったことから、これ以上の学習時間の増加は難しいものと考えており、復習テストを○×などの簡単な問題の課題を貸していたが、おそらく30分以内で終了できるものであったのだろう、1回30分以上の準備・復習が0回の者は57.8%であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、公衆栄養学領域で入学後初めて受講する科目であり、行政業務の理解をするための基礎的な法的根拠や実態把握の種類等について学び、3年時の実習へと繋ぐ科目であるため、CP上の位置づけは妥当であり、98.9%の学生が「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」と回答していることから、内容的妥当性は確保できている。 しかし、2年前期にすでに終了している公衆衛生学と重複している学習内容について復習しながら進めるが、ほとんどの学生が公衆衛生領域の内容を忘れている。そのため、学習の準備時間の不足も含めて、履修済科目との関連を授業内に効率よく含めていくことを検討する必要がある。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	行政、法律、社会保障などの理解には中学・高校レベルの社会科の理解が必要であるが、理解に乏しい学生が見られ、基本的な部分からの説明が必要な状態で、臨地実習および国家試験合格のための内容を網羅しようとする授業時間数が圧倒的に不足しており、講義内容を検討し、「最低でも臨地実習Ⅲに必要な内容レベル」まで、そぎ落とし、国家試験合格に必要な内容については4年時開講の管理栄養士演習に持ち越すなどの工夫はしている。 パワーポイントを投影し説明のみに留まると、口頭での説明内容をメモ書きすらない学生が多いため、パワーポイントをホワイトボードに投影し、パワーポイントの内容とホワイトボードへの書き込みを併用していたが、投影された画面が小さく(ホワイトボードの縦の長さしか投影できない)、後ろの席の者が見えにくいとの意見があるため、パワーポイント上にアニメーションで吹き出しなどを利用し、直接写したり、教科書を実物投影し、直接教科書に書き込むところを映し出したり、学生と同じ条件で授業をすすめるなどの工夫をした。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	2年後期から履修科目が増え、さらに基礎科目から栄養士・管理栄養士資格の専門科目が増えることから、学生の学習スタンスに戸惑いを感じられるが、学習到達度自己評価が高く、定期試験の平均点も若干昨年より向上したことから、基礎知識の形成は概ねできたと評価される。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	境田 靖子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地域栄養活動論	3	後期	選択	いいえ	82

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、選択科目であるが、臨地実習Ⅲ（保健所・保健センター）の事前指導を兼ねた授業内容となっているため学生に履修をするように指導している。このことから（資格に）必修科目である35.5%、資格取得に必要50.0%、教員に勧められた9.7%が受講動機となっている。昨年より、「関心のある内容だったから」が低下している（4.7⇒3.2%）ことから、本来は選択科目で履修する必要があるのに、「臨地実習のために」仕方なく履修したという授業準備性の低さが垣間見える。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生による自己評価において、自分なりの目標を達した者98.4%、DP1知識を確認修正することができた(98.4%)、DP3学びを深めたい意欲(98.4%)と、DP4職業倫理や行動規範(96.9%)となっており、概ね学習目標は達成されたと考えられる。また、実習先市町村（まやは保健所）のホームページより実習先の概要や統計情報の収集にインターネットの利用が必要であることから、他の科目に比べ調べ学習(48.4%)が高いと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の履修スケジュールや利便性、および選択科目である本科目の理解度を高めるために、臨地実習Ⅲ（保健所・保健センター）の事前指導を兼ねた授業内容としている。このことは、学生の自己評価の高さ(学びを深めたい意欲98.4%、専門分野で必要となる技術の習得98.4%や自由記述からも妥当性が高いと考えられる。また、外部講師として現職の行政管理栄養士による講義を3回取り入れていることから、職業倫理について学ぶ96.9%、職業選択の参考になった98.4%となっていることから、内容的妥当性は高いと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	臨地実習ノートの事前学習内容をレポート課題しているが、臨地実習先によつて(都道府県、市町村など)習得できる情報の量・質が異なることから、(特に市町村はインターネット上での情報開示量が少ない)、課題の進め方がわからない学生との意見が多かつたため、今年度は、かなりの情報を授業内で紹介し、学生と一緒に予習ノートに記述する方式をとつた。以上のことから、昨年よりインターネットの活用や、振り返りのための復習時間が減少したが、「何を書いていいのかわからない」という意見は少なく、またレポートの再提出率も低かつた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	卒業必修や資格必修の科目の中では時間が取れない「災害時の食支援」について、非常食の観察なども取り入れたり、実際にみることはできない配食サービスをしている企業での管理栄養士の活躍や在宅訪問管理栄養士の指導風景などのテレビ番組をビデオで視聴することで、外部講師として呼ぶことができない管理栄養士の活動にまで踏み込んで学習できたため、将来への意欲や展望が増したと推察される。特に、訪問介護の中の栄養指導の実際についてのビデオは、とても興味深く視聴していたように思う。学生の負担になるため、感想文などの提出はしなかつた。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
給食経営管理論	2	後期	選択	はい	83

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	給食提供現場の経営管理分野に関しての科目である。経営学の科目内容の約50%を占めるため、授業初回に本講義の趣旨と授業計画の説明を行っている。学習の準備性の点では、専門分野の科目としてはなじみにくい内容であることから、例年通り復習に重点を置かせている。また、実務に直結する内容というより、国家試験に必要な知識が多く含まれる科目のため、その点を重点的に説明するようにしている。さらに、本科目の中で、卒業後の就職先となり得る「特定給食施設各種の給食経営の特性」と「給食施設のマネジメント」を説明しており、学生自身の進路選択の参考となる情報提供も意識した講義内容としている。さらに、平成30年度の診療報酬や介護報酬の同時改定に関しても重点的に解説をし、医療と福祉の各領域の管理栄養士間の連携の重要性が増大している社会的背景への理解を促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本試験の成績平均値は67.0±12.3(2017年度63.2±13.7点)であり、再試験対象者は23/77名;29.9%(2017年度32/98名;32.7%)で昨年度より僅かに減少した。再試験対象者の本試験平均得点は49.2点(2017年度48.2±11.5点)であり、全体平均得点(67.0±12.3点)と比較すると約20点のも差が確認された。試験の難易度は例年と同レベル(概ね70点以上の得点を理想レベルとした)であったことから、再試験対象者の標準レベルの到達度は極めて低いと考えられる。本科目は例年試験形式に論述式を多く取り入れており、暗記だけでは対応できない試験形式への準備不足および勉強への取り組みの甘さが考えられる。試験はDP1(知識理解)の評価方法である。学生の到達度自己評価を見ると、「自分なりの目標を達成した」と評価する学生が増加し(中央値4.0:昨年度中央値3.0)、また、また、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」ことに関する評価が高かった(中央値4.0:昨年度中央値3.0)。「学習量の評価」からは、例年同様、予習・復習にかける時間数が圧倒的に不足している状況であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	臨地実習Ⅰ（給食の運営）の実習先となる各種特定給食施設の給食経営管理の内容について解説する科目でもあるため、履修学生は「資格取得に必須」の科目という認識を持っている。また、「職業選択の参考になった」と評価する学生が多いことから、「専門応用科目」としての責務を果たしていると考えられる。前述した「経営学」の部分も給食施設の経営管理として解説しているため、「新たな知識の確認」という点では一定の評価が得られていると思われる。よって、内容的には妥当であると思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「意見をまとめる」「話しあう」「発表する」等の学生参加型の講義方式にすることは難しく、授業の質評価の他項目より評価がわずかに低かった。科目内容の性格上、網羅すべき内容が多く、それらが国家試験に直結する内容であるため、現在の講義方法を変更することは難しい。学習量の評価を見ると、予習・復習に取り組む者がきわめて少ないが、自由記述欄から「他科目・実習の課題で時間が取れない」との意見があり(2017年と同様)、これが原因であることが想定される。特に3年後期は多くの実習が配当されているため、予習・復習の時間確保に関しては苦慮するところである。これは、学科全体の問題であると思う。一方で、「授業内容で十分であった」との意見も散見されるため、授業の質に対しての一定の評価が得られていることが裏付けられると考える。また、PPを使用しているが、この光源が不十分であったとの指摘があった。以後、気をつけたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	給食経営管理分野の講義科目として、学内実習・臨地実習に向けての知識を教授する位置づけの科目である。到達度自己評価の結果からは、給食施設における管理栄養士の業務内容への一定の理解は得られており、職業選択の参考となる講義内容であった点は評価に値すると考える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用栄養学実習	3	後期	必修	はい	89

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①応用栄養学実習は、講義の応用栄養学Ⅰ、Ⅱの実習科目であり、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が96.2%であることは当然の回答であり、「関心のある内容である」が1.3%と低いことに関しては、昨年度同様、応用栄養学Ⅰ、Ⅱ(2年後期、3年前期)の講義が、学生にとっては関心を引き付けられるような内容でなかったことや、本実習科目を応用栄養学の実習科目であることの理解につながることが出来なかったことが考えられるため、講義における応用栄養学の内容に関して、次に続く実習に結び付けながら学生のモチベーションを保ちつつ、本実習に臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある。 ②昨年までと同様、この実習では、学生に献立を調理させる前に示範をし、調理の際の留意点や栄養補給法のポイントを説明した。また各ライフステージにおける栄養学上のポイントを中心にスライドで講義を行い、講義と調理実習をセットで行うことで各ライフステージにおける食生活の違いを視覚的にも聴覚的にも捉えることが出来る講義内容となるように考えている。その結果、学生たちが意欲的に講義に臨む姿勢がうかがえる上、授業評価の自由記述にも、興味を抱くことが出来たと考えられる意見が挙げられており、今後も試行錯誤しながら実習内容の検討を続けていく。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP1(知識理解)、DP2(思考判断)の一部に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果は88名の受講生中、A(秀)が7%と昨年度に比べ低かった、B(優)が21.6%で、C(良)は42%と高かった、D(可)が20.5%で、不可の学生は9%であった。今年度はA(秀)やB(優)の学生の割合が低かったため、昨年度より知識・理解のレベルが低下していた。また、DP3(意欲関心)、DP4(態度)やDP5(技能・表現)に関しては、課題への取り組みや提出物、調理技術等で行った。受講生殆どが標準的レベルに達していた。理想的レベルの学生は、まだまだ限られてはいるものの、受講生の多くに、実習受講に対する意欲の高さはうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断、意欲関心そして技能・表現、態度全てにおいて自己評価が高い。この実習への関心の高さは、試験結果や、課題内容、自己評価で判断することが出来た。また学習量の評価では、約半数の学生が予習および復習を行っていた。このことは課題の提出が義務であったからという理由も考えられるが、シラバスにおいて予習・復習をする具体的な時間を記載していたことも学生たちの自学につながったと考える。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生も多かった、今後も図書館の利用をすすめていく。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学習量の評価では、約半数の学生が予習、復習をしてきていた。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は29%であった。シラバスを参考にした学生の29%が、「シラバスに沿って講義をうけることが出来た」、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答しており、この割合は昨年度よりも低かった。今後も実習初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の実習の進め方、課題提出や自己学習の仕方等を丁寧に実施していく予定であるが、学生の傾向を捉えながらシラバスをもっと活用していくように促す必要がある。予習復習等自己学習に関しても、課題以外の学習をも取り組むことが出来るように、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価では、多くの学生が予習、復習をしてきていた。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は27%であった。シラバスを参考にした学生の22%が、「シラバスに沿って講義をうけることが出来た」、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答しており、この割合は昨年度よりも低かった。今後も実習初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の実習の進め方、課題提出や自己学習の仕方等を丁寧に実施していく予定であるが、学生の傾向を捉えながらシラバスをもっと活用していくように促す必要がある。予習復習等自己学習に関しても、課題以外の学習をも取り組むことが出来るように、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、座学の応用栄養学の実習科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。これからも実習時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養教育論実習Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	88

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では、病態、食事療法について理解し、生活習慣の改善や傷病者に対する食事療法を支援するための栄養カウンセリング技法の獲得、個人および集団に対して適切な栄養教育ができるようになることを目的としている。また、グループ学習を通して多職種協働を理解し、コミュニケーションスキルを身に付けることを目標に掲げている。 本科目は、栄養士取得および管理栄養士受験資格の必須科目であるという位置づけであるため、多くの学生の受講動機は、「必修科目である」「資格取得に必要である」との理由である。開講時の「学修準備性」については、授業の最初にアンケートを行っていないため学生の準備性の事実を把握できていないことから、今後は準備性を把握し授業計画に活かしたいと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、79.6点であり、不合格者は0名であった。標準的レベルに達した者(70点以上)は82名(93.1%)であり、その中でも理想的レベル(80点以上)に達した者は46名(52.2%)であった。成績評価は、課題提出、ロールプレイ、発表および発表に関する取り組みにより行った。ロールプレイおよび発表は、評価基準を示し学生同士による評価ならびにフィードバックを実施した。標準的レベルに達していないものは、特に発表に対する取り組み方に課題がみられたため、授業オリエンテーションや毎授業で学習への意識が高められるように促していきたい。 学習到達度の自己評価においては、どの項目においても98%以上が「そうだと思う」と回答しているため、教育目標は概ね達成されたと考えられる。本科目では、栄養教育のための教材作成で情報の収集が必要である。そこで、図書館利用の項目から情報収集の方法について確認すると、インターネットを利用が28.9%、図書館での図書・雑誌の利用が12.5%、学術データベースの利用は10%であった。インターネットによる情報収集に頼っている学生が多いため、根拠のある情報を収集するためにも、図書や雑誌の利用、また学術データベースを利用する学生を増やすことも今後の課題であると考ええる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の中の「専門分野」に位置し、「臨地実習」へとつながる科目である。栄養士資格取得、管理栄養士国家試験受験資格に必須となっている。栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする能力および個人栄養教育、集団栄養教育で適切な栄養教育を実施する力を養う科目であるため、栄養士、管理栄養士を目指す学生にとって必ずしも身に付けておくべき分野である。また、学生の成績より一定の成績を収めているという結果から、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価は、DP5の「技能・表現」を重視し、課題や発表など授業内での取組により行った。学生の授業評価では、到達度自己評価においてDP5に該当する「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目は98%の学生が「そうだと思う」と答えており、内容的には妥当であったと考ええる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「評価基準や課題が明らかであったか」の項目で、「全くそうでない」「少しそうでないと思う」と約10%の学生が回答していたこと。学生にとって基準が明確でなかった点があったのではないかと考えられる。本科目は、筆記試験による評価がないことから、課題や発表での評価基準をより明確に学生に示すことが来年度への課題である。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業の質評価において、「評価基準や課題が明らかであったか」の項目で、「全くそうでない」「少しそうでないと思う」と約3%の学生が回答していたこと。学生にとって基準が明確でなかった点があったのではないかと考えられる。本科目は、筆記試験による評価がないことから、課題や発表での評価基準をより明確に学生に示すことが来年度への課題である。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床栄養学実習Ⅱ	3	後期	必修	いいえ	88

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では、傷病者の病態や栄養状態の特徴に応じた適切な栄養管理を行うため、疾患の成因・病態ならびに治療法を把握し、身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養管理方法を理解することを目的としている。また、食事療法を必要とする疾患・病態の症例を提示し、栄養アセスメント、栄養ケア計画の実践、食事療法の調整、栄養指導までの一連の流れについて、実習することにより、臨床栄養分野における管理栄養士としての資質を身につけることも目標に掲げている。 本科目は卒業必修科目であり、かつ、管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、ほとんどの学生の受講動機は『必須科目である』であり、35%は『資格取得に必要である』との理由であった。また、学修準備性については、実習の事前事後課題等もあったことから、約70%程度の学生が予習復習時間を確保していたが、自発的学習に取り組んだ学生は15%程度と少なかった。このことは、栄養学科3年後学期は学外実習が始まる時期であることから、学生は多忙を極めていることに加え、授業の課題に取り組むことに精一杯であったためと考えられる。実際、課題以外に学修に取り組めなかった理由として、本理由が挙げられている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の本試験成績の平均値は72.2(±9.4)点であり、昨年度(78.2(±8.7)点)よりもやや低い得点であった。また、本試験合格者は全体の89%であり、成績の平均値同様、昨年度(96%)よりも低かったことに加え、例年と同じく、標準偏差が大きかったことから、学生の修得状況には個人差が大きかったものと思われる。実際には、35名(40%)が標準的レベル(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は23名(26%)であった。達成度評価の指標は、筆記試験、実習試験、課題、発表等であり、学生の学修の成果が十分に反映されるよう配慮しており、例年に比し、大きく変更した点はなかったものの、全体的に成績が低下していたことに対しては、早急に対応すべきと考える。また、本科目を受講するに当たり、約70%程度の学生が予習復習時間を確保しており、授業の参加ならびに振り返りに対し、積極的に取り組んでいた。また、図書館およびインターネットの利用も認められ、本科目に対する学修準備性の高さが窺え、このことは、学生の到達度自己評価においても同様の結果を示しており、大多数の学生が専門的知識および技術の修得に対し、達成できたと回答していた。以上のことから、本科目における教育目標はおおよそ達成できたものと予想される。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、26問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかねばならない知識の一つである。このことは、学生の達成度自己評価の『職業倫理や行動規範』『職業選択』の項目において、大多数の学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。また、『知識の確認・修正』や専門分野の『課題を検討する力』『的確に判断する力』『学びを深めたいという意欲』においてもほぼ全員が『達成できた』と回答していたことから、内容的妥当性については問題ないものとする。後学期終了後、本科目履修学生は臨床実習Ⅱ(臨床栄養：病院)での学外実習を控えており、本科目が臨床実習Ⅱに対する動機づけならびに専門的知識・技術修得の重要性に対する気づきにもなったものと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったことに加え、自由記述では『ためになる授業』との肯定的意見も見受けられ、本科目の内容等についての課題はないものと推察され、今後も引き続き、高い達成度を目標にしたいと考える(近江雅代)。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、26問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておくべき内容である。さらに、本科目の内容は3年次後学期終了後の臨地実習Ⅱ(病院)とも直結しており、学生は本科目の学修準備性として、予習復習時間の確保ならびに積極的な学習の取組を実現したことにより、半数以上の学生が標準的レベル以上を達成した。また、学生の達成度自己評価では『知識の確認・修正』や専門分野の『課題を検討する力』『的確に判断する力』『学びを深めたいという意欲』『職業倫理や行動規範』『職業選択』において、ほとんどの学生が『達成できた』との回答であり、講義内容等についての課題はないものとする。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	境田 靖子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆栄養学実習	3	後期	必修	いいえ	87

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	3年後期で、臨地実習Ⅲ(保健所・保健センター)を履修する者と履修しない者に分かれるため、資格取得についての動機付け(34.2%)と必修科目であるから(97.5%)履修しているという受講動機に差が見られた。臨地実習を踏まえ、公衆栄養マネジメントのPDCAサイクルを一通り運営し、理解と技術ため、次年度より課題の提示について、より具体的にしよう検討したい。 また、PCでの作業が多いが、本学のPCルームが土日は使用できないことが、課題の進捗に影響を及ぼしている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の成績の平均値は75.0(±8.2)点で、概ね標準的レベルに達した。 学生の自己評価によると、各目標の達成度はDP1事象を理解する視点や考え方を得ることができた(100%)、DP2専門分野の課題を検討する力(98.8%)、DP2的確に判断する力(97.6%)、DP3専門分野について学び深めたい意欲(98.8%)、DP5必要となる技術(100%)、DP5コミュニケーション力(100%)と、どれも高かった。 グループ活動が多く、複数の課題を班員で分担して行うことが多いため、どうしても成果物を担当した学生のレベルに班の課題は委ねられてしまうことが多いが、公衆栄養マネジメントのPDCAサイクルをすべて歩く(自分たちで課題を発見し、計画し、実践、評価する)ことが、おそらく初めての経験であるため、達成度と学習満足度が高い結果と考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	臨地実習を目前に控えた3年後期の開講科目であり、主に課題を発見し、解決策を考える力、行動変容が期待できる集団健康教育企画の立案と運営などの実践的な能力の習得を目指す内容であり、学生の学習到達度の自己評価も97.6%と高いことから内容的妥当性は高いものと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	また、実習スケジュールから、毎年「課題が多い」と不満が多いので、授業内容については毎年改善(実習内容のスリム化)している。それでも、時間が延長(135分以降になることを延長と表現)することの対する不満が自由記述からうかがえるが、臨地実習先施設(保健所・保健センター)から要求される課題を進めるためには必要な力であるので、これ以上はレベルを落とせないと考えられる。 実際に採集したアンケート結果から課題を発見し、解決策を検討することを目指しているため、どうしても情報処理能力が問われる。実習中には統計処理ソフト(エクセル統計)の使用方の説明しかできないため、実際の統計処理は各自の実習時間外作業となるが、情報処理室の開放時間が限られているため、課題が思うように進まないようである。この点については、授業内容レベルの低下はこれ以上できないため、大学の学習環境の改善を強く望む。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	ニーズアセスメントのためのアンケート作成から、PDCAサイクルの運営を一通り行うタイトなスケジュールであるが、3年後期の専門科目の最終段階で、臨地実習直前の科目であるため、課題が多い点は認める。しかし、実際には臨地実習先から高い評価を得ているため、効果があると評価できる。 次年度は学生の課題に取り組む時間や負担を減らすために、参考図書や資料の提示、評価方法の事前の提示などを取り込んでいきたい。
------------------------------	--

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
給食経営管理実習Ⅰ	2	後期	必修	はい	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①管理栄養士・栄養士の要件科目であり、3年前期・給食経営管理実習Ⅱ(以降、実習Ⅱとする)の基礎となる科目である。履修動機としては「必修科目である」が98.3%、「資格取得に必要」が27.1%であった。卒業必修、管理栄養士・栄養士資格必修選択科目、また臨地実習Ⅰの要件科目であるため、前述のような結果となった。 ②特定給食施設を想定した生産管理、衛生管理、品質管理、原価管理の計画・実施を、各管理内容に必要な帳票整理を通して評価・改善を行わせる内容である。学生の自主学習が実習進行度および給食管理に関しての習熟度に影響を及ぼすため、2年前期・給食計画論で必要な知識の習得に努め、本実習で実践する流れを作っている。 ③実習の性格上、時間外の作業が多いことについて、あらかじめ時間外の活動が必要となる点に関してオリエンテーションで十分に説明を行った。実習内容と趣旨の説明を『実習担当2週間前』、『実習担当1週間前』、『実習担当前日』、『実習担当当日』と時系列で詳細に行い、理解を促した。授業時間外の活動を省くことは、実習を運営する上で、困難である。本実習で修得した経営管理の知識を、実習Ⅱで実践・運用していく。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	総合成績の平均点は73.3±14.4点(昨年度80点)で、再試験対象者は10/89名(14.5%;昨年度20.2%)であり、同レベルの内容で行ったにもかかわらず、昨年度より再試験対象者の減少が認められた。再試験対象者の本試験平均得点は52.3±6.5点であり、本試験合格者の平均得点(84.4±4.4点)と比較すると約30点のも差があり、極めてDP1(知識理解)に関しての到達度が低い者である。DP2～5に関しては、実習を通しての実務や課題内容で判断し、標準レベルへ到達したと思われる。到達度自己評価は全ての項目において高い評価となっており、特に「目標達成」および「事象を理解する力」に対しての到達度自己評価は昨年度より高い結果となった。この結果より、広い視野で物事を見ることが可能となり、目標達成への自信につながったと考えられる。学習量の評価では約70%の者が30分以上の予習をした上で実習に参加していた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本実習は専門科目、臨地実習への準備科目としての位置づけである。専門的知識、技能ともに実習の中で網羅されており、DP、CP、カリキュラムマップからみて、内容的に妥当であると考ええる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価より、全ての項目で昨年度より高い評価(平均3.9, 中央値4.0)を得ており、学科平均以上(本科目全項目3.7～3.8)であった。本実習は、課題も多く、時間外に予習し、準備する内容も多い。そのため、実習一連の流れを十分に理解し、学生自身が自主的に取り組むことが必須である。そのため昨年度に引き続き、特にオリエンテーションの内容を充実させ、さらに「教員が指示する」のではなく、「学生同士で考えて、検討し実施する」ことに重きを置いた。自主性という点では予習・復習の取り組みの状況を見る限り、概ね良好な状況であったことが窺われる。一方で、昨年同様、スタッフ側のマンパワー不足が顕著であったため、学生指導が十分に行えなかったことが反省点である。必ずしも専門職を目指すわけではない学生が増加する中で、マンパワー不足の中で専門に特化した実習を運営する難しさを改めて感じた。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生によっての取り組みの程度に差が見られ、消極的な取り組み姿勢の学生が増加している現状から、実習初回のオリエンテーションで詳細に実習の趣旨とスケジュールの説明を行っていきたい。また、前期科目である「給食計画論」からの連続的な実習であることを、今後さらに意識していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、これまでの専門基礎科目および専門科目で学んだ中で、学生が関心を持った領域から、担当教員との話し合いでゼミのテーマを設定し、年間を通して調査・研究を実施することにより、専門的知識ならびに理解を深めることを目的としている。また、自己啓発に努め、実社会において、管理栄養士に必要な問題解決能力を身につけることも目標として掲げている。 本科目は、選択科目ではあるものの、大学入学以来履修した全ての科目で学んだことの集大成との位置づけであり、学生は開講ゼミの中から、関心を持ったゼミを選択している。そのため、当然のことながら、受講動機はほとんどの学生において『関心のある内容である』との回答であった。また、ゼミテーマ達成のためには、自主的な学修は必須であり、学修準備性については、ほとんどの学生が積極的に取り組んでいた。同様に、ほとんどの学生がインターネットの利用を積極的に行い、問題解決に向けた努力が認められた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の成績は、全学生(100%)が理想的レベル(80点以上)に到達しており、学生の学修の成果は十分に反映されていたと考えられる。学生は提示されたさまざまな課題に対し、十分に予習復習時間を確保し、積極的に取り組んでいた。本科目に対する準備性の高さが窺え、これらのことが学生の成績へと表れたものと推察される。このことは、学生の到達度自己評価においても同様の結果を示しており、全学生が『知識の確認・修正』や専門分野の『課題を検討する力』『的確に判断する力』『学びを深めたいという意欲』『職業倫理や行動規範』『職業選択』において、ほとんどの学生が『達成できた』と回答していた。以上のことから、本科目における教育目標は達成できたものと予想される。 今年度は『地元企業との協働による栄養バランスに配慮した・弁当メニューの開発および提案』『連携公開講座における給食の提供(献立作成・試作・発注・準備・大量調理等)』『レシピコンテストへの応募』『北九州タニタ食堂とのメニュー開発』等のテーマを中心に活動した。連携公開講座における給食の提供では、給食経営管理の実践を体得することにより、管理栄養士に必要なスキルを身につけたものと思われる。また、レシピコンテストでは、第3回郷土料理コンテスト2018(主催:日本うま味調味料協会)にて『優勝』、第4回食物アレルギー対応食料理コンテスト(主催:公益財団法人ニッポンハム食の未来財団)にて『学生の部:最優秀賞』『学生の部:審査委員特別賞』、第5回やさしい素材レシピコンテスト(主催:株式会社マルハニチロ)にて『準グランプリ』、チャレンジ!糖尿病いきいきレシピコンテスト2018(主催:公益社団法人日本糖尿病協会)にて『実行委員長賞』を受賞した。実際に、このよう外部からの高い評価を受けたことは学生自身が目標を高く掲げ、常に努力し、管理栄養士に必要な問題解決能力を身につけたことに繋がるものと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、大学入学以来履修した全ての科目で学んだことの集大成として位置づけられており、年間を通して調査・研究を実施することにより、専門的知識ならびに理解を深め、実社会において、管理栄養士に必要な問題解決能力を身につけることを目的としている。さまざまな課題に対し、積極的に取り組み、解決へと導くことは、将来、管理栄養士として直面する様々な課題を解決する能力を養うことに繋がったものと思われる。また、様々な食に関するゼミ活動を通して、管理栄養士に必要なスキル等を学んだことは、専門的知識・技術修得の重要性の気づきになったものと考えられる。このことは、学生の達成度自己評価の『職業選択』の項目において、全学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。また、全学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しており、内容的妥当性については問題ないものとする。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったことから、本科目の内容等についての課題はないものと推察され、今後も引き続き、高い達成度を目標にしたいと考える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は、大学入学以来履修した全ての科目で学んだことの集大成として位置づけられており、年間を通して調査・研究を実施することにより、専門的知識ならびに理解を深め、管理栄養士に必要な問題解決能力を身につけることを目標としている。本科目の学修準備性として、予習復習時間の確保ならびに積極的な学習の取組を実現したことにより、全学生が理想的レベルを達成した。同様に、達成度自己評価においては、全学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答した。様々な課題に対し、積極的に取り組み、多岐にわたる食に関するゼミ活動を通して、管理栄養士に必要なスキル等を学んだことは、将来、管理栄養士として直面する様々な課題を解決する能力を養うことに繋がったものと思われる。以上のことから、本科目の内容等についての課題はないものと考ええる。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、管理栄養士国家試験の受験科目ではない。自由選択科目であるが、例年ほぼ全学生が受講している。四年次のアドバイザーは、基本的には、この卒業ゼミ担当教官が兼任することになっている。従って、担当教官は、ゼミ研究の遂行だけでなく、就職支援、国家試験合格支援を行うことになる。従って、受講動機が「関心のある内容である」でポイントが高いことは必然として理解できた。 ②週一回の国家試験対策の勉強会には、国家試験受験者は全員が参加し、結果的に、受験者8名全員が合格した。 ③ゼミについては、文科省指針に従って、2単位分の実験実習科目と同等の扱いとするために、72時間30分+実験に関する打ち合わせに要する時間＝80時間として、その時間内でひとつの研究が遂行されるように指導し実施した。実験のとりまとめ(レポート作成)の時間は、この80時間には含めなかった。レポートの質は、これまでになく全員が大変高い質を確保することができた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①例年、就職が順調に決まらない者と、管理栄養士国家試験のための学習が思うように進まない者は、途中で本科目の履修を放棄して、就職活動もしくは国家試験対策の学習に集中する。今年度の放棄者は、昨年・一昨年と同じく皆無であった(三年前の放棄者は4名、23%であった)。今回の受講生8名のうち卒業時の進路決定者は7名で、残念な結果に終わった(昨年は6名全員が進路決定できていた)。 ②受講者のゼミ研究内容は例年に比べて質の高いものであった。 ③学生による授業評価においては、グループ研究方式をマンツーマン方式に切り替えたてから飛躍的に向上してきた。 ④次年度の改善目標としては、これまで通り、個々人の個性に合わせて、さらに就職活動の時期や状況をよりの確に考慮しつつ、研究指導を行って行くことである。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は選択科目であり、学習の動機付けは容易であり、学生も一定レベル以上の良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えた。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から「知識理解」「思考判断」「意欲関心」「態度」「技能表現」ともに達成度が高かったことと、昨年度課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、内容的には妥当であったと考えた。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われた。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	①自由選択科目であるが、受講学生のアドバイザーとしての任務を兼ねるため、就職支援と国家試験合格支援のために割く時間はかなりの時間となり、その労力も 測り知れないほどに大きい。そういう意味では、大変責務の大きな科目となるが、今後も受講生の進路支援を充実させて行く方針は変えない。 ②受講者は、就職活動と国家試験対策の学習という大変忙しいなか、質の高い研究を成し遂げてくれた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①全員が卒業ゼミ研究を完成させることができた。 ②就職については、長期療養者を除いて全員が内定を勝ち取ることができ、かつ、国家試験受験者8名全員が合格し、これまでと同様の素晴らしい結果を出すこ うであった。 ③今年度は受講生が比較的少なく、目が行き届きやすく、より細かな指導ができたと思う。今後も、今年度にならって、卒業ゼミの受講者を5名前後と少数精鋭化し て、より細かな指導ができるような体制で実施して行きたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①専門である「運動生理学」に関連した学生の興味関心事項をゼミのテーマに取り上げ、学生の実動力を高めるよう務めた。本年度のテーマは「アスリートの栄養状態」の調査をテーマとした。学生の準備性は過去の運動部経験のみで、確固たる運動に関する知識は殆ど無い状態で始まった。しかし、各人の経験を考察に生かしながら進み、深く研究できるようになったと思われた。 ②本研究室の運動生物学研究に栄養学の新たなカテゴリーが加わり、これまでのテーマの方向性が変わったことを印象づけた。 ③研究ノートを作成させ、毎週の研究学習から調べたことなどを確認し助言し、学習意欲を確認しながら進めた。 ④ゼミでは、就職試験時の面接対策を年頭に受講するものが多いが、その主眼を研究調査の興味から受講させるような魅力を持たせるように務めたが、そのことを今後も続けたい。そのためのゼミ紹介の検討をしたいと思う。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受験者10名(アンケート回答7名)の中で、単位修得が目的4名、興味関心での受講者1名であった。 実験、解析、結果の考察等、一連の作業を首尾良く行ったことは評価される。また自己達成度では学生自信の栄養学専門分の参考になったこと、職業選択の上で参考になったこと、研究の達成感を多少なりとも感じていることは評価できる。 実験測定に参加状況、参加態度、研究ノートの作成状況、実験の手法の定着性、解析の緻密性、結果に対する理解度や考察の広がりを評価の根拠とした。 学生による授業評価においては、知識理解の観点、思考判断の観点での自己評価にあまり差がない。これは、思考判断で何が問われているかを自覚していなかった可能性が考えられる。次年度に向けて思考判断の目標を明確に伝わるよう工夫するようにしたい。 なお、国家試験の受験と卒業研究が重なることはどちらに対しても時間的干渉が避けられない。大学生の卒業研究の意義の重要性を鑑み、カリキュラム上で開講期間の工夫を検討して頂きたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本運動生理学研究室の専門と栄養学科生の特徴を融合した研究テーマを示していた。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高かった。昨年度課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、その領域の成績は上昇したことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。 ゼミの内容はその研究室の特性から、受講生が選ぶものであるが、大学生が卒業研究をしなくても良いというものではない。しかしその選択が国家試験との兼ね合いで、半数以下の学生しか選択しておらず、卒業研究に至っては1名と聞いている。他大学では必修であったり、就職の面接での問項目であるにも関わらず選択されないのは非常に矛盾を抱えた開講状況と言える。今後の制度的発展を期待したい。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	ゼミ生の理解度に応じて進度を変えた。ゼミの場合は個人の進度が明瞭に感じ取られるため、このような進め方も有効と感じた。しかし、学習量は増えたとは示されなかったが、図書館等の利用を積極的に行っていたので、学生が自覚できるような学習状態の提示をしていくことが必要かと考える。次年度への課題とする。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本授業によって、自宅での作業、予習復習を行ったり、図書館を利用したり、積極性を感じられるような学習態度がみられたことは評価できる点である。しかし、卒業必修科目ではないことから、研究に注ぐ時間は積極的といえない。ただ、運動生理学とはどのような者かをの本流を伝えられたと考える。 ところで、ゼミ選択が、本学栄養学科の学生は過半数以下となり、4年制の大学の卒業単位としてその意義を失いつつあると判断できる。ましてや卒業研究(卒論)を撮る学生が数名という状況では、大学の本質は卒論を軽視し、国家試験勉強に移行してしまっている。このような中での授業の評価はおのずと低くなると考える。科目、単位の意義、カリキュラム上の検討が必要と考える。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①卒業ゼミは、4年次の選択科目であり、学生が興味のあるテーマを選択する。受講動機は「関心のある内容である」6/7名(86%)であった。一昨年度に単位数確保だけを動機にゼミを履修してしまうと、活動していく中でゼミ活動への意欲が失せる可能性があり、結果としてゼミ全体のモチベーションの維持が難しくなったため、ゼミを履修前の説明時(面談時)に、より詳しい説明を行い、意志の確認をした、今後もそうしていく。またゼミでは、ゼミ活動以外に相談や国家試験対策等のサポートを行ってきた。今後も学生たちの大学生活でのサポートを継続していく。 ②ゼミでは、福祉学科が実施しているほほえみの会(低出生体重児とその保護者の会)で、福祉や看護の学生たちと協力して、栄養や食事のサポートだけでなく遊びのサポートも行ってきた。学生たちは、このほほえみの会の活動を行っていきなかで、自然とチームで活動することの大切さを(3学科協働の精神)身につけることができていたと考えられる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(関心意欲)、DP4(態度)、DP5(技能表現)すべてにおいて、準備から実施にいたるまでのゼミの活動や提出物によって評価した。特にDP2および5についての学生たちの自己評価が高く、学生個々人がゼミ活動を実施していく中で、課題を検討する意欲や学びをふかめる意欲が芽生え、必要となる技術も身につく、さらにはコミュニケーション能力・表現力を高めることができたものとする。ゼミ活動が就職選択の参考になった「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」とすべての学生が回答しており、この回答からも学生が意欲をもってゼミ活動を行ってきたことが推察される。 ②ゼミ活動においてはシラバスの計画通りにはいかないため、前期スタート時に年間のゼミ計画の概要を説明する。よってシラバスを参考にはしていないという回答は、やむを得ない。今年度は、課題学習や自己学習のために図書館やインターネットの利用が少なかった。今後は学術的視点からもっとデータベースの検索利用回数を増やせるよう、学生たちに教え使用を促していく。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、4年次の選択科目である。本科目履修者の学習到達度から、選択教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	上記4にも記載したが、ゼミ活動においてはシラバス計画通りにはいかないため、前期スタート時に年間のゼミ計画の概要を説明する。課題学習や自己学習のための図書館やインターネットの利用が低かったことに関して、今後は学術的視点からもっとデータベースの検索利用回数を増やせるよう、学生たちに教え使用を促していく。ゼミの活動時間は、3学科の協働の時間であり、栄養学科の学生個人との時間をなかなか持つことが出来なかった。今後は、ゼミ活動以外にもゼミ生と接する機会を増やし、ゼミ活動、国家試験勉強、就職活動など様々な面で学生のサポートをしていきたいと考える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目の位置づけは、4年次の選択科目であり、学生が自ら希望するテーマ(教員)を選択していく。選択科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。これからは学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、ゼミ(授業)改善を行っていく。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	ライフステージ別の食教育を含めた料理教室の運営活動を行っているが、企画～準備～実施～評価～改善を通して、学生の自主性を重視して指導を行っている。 また、障害者支援施設の給食部門と連携し、一般成人向けの昼食用弁当の企画・生産・販売を実施している。この取り組みは、給食施設管理栄養士および調理師との連携が必要であり、指導教員の担当科目の専門性にも合致した内容である。さらに、2018年度は『久原醤油』とのコラボ企画により、「久原の白だし」の活用レシピを考案し、久原醤油本社へ提案を行った。完成したレシピは久原醤油HP上に『西南女学院大学コラボレシピ』として掲載されている。この取組から、企業のマーケティングの視点や方向性を理解し、担当社員の方とディスカッションすることで、企画から商品化という過程を学ぶことにつながったと考える。毎年のことながら、履修学生の大半の受講動機は「関心のある科目である」であり、取り組み意欲の高さが窺われ、担当教員の指導方針との整合性が得られていたと考えられる。一方で、「単位数確保」を選択している学生もあり、このことから学生間に取り組みへの温度差があったことが確認できる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価から、「知識の確認・修正」(評価4.3:中央値4.0)ができ、特に「専門分野のさまざまな課題を検討する力(評価4.3:中央値4.5)」「コミュニケーション能力(評価4.5:中央値5.0)」が身に付いたと評価する者が多く、昨年度の評価より上昇した。また、「行動規範」等を学ぶことができたとし、「職業選択の参考になった」と評価された。これらは、DPの目標に到達したとする十分な判断材料であると考えられる。いずれも、評価の平均は4.0を超える高い結果であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	4年間の学習内容を総合して取り組むのが卒業ゼミであると考えらる。また、本ゼミ活動は大学生活で得た知識・技術を実践する活動内容であり、これを活用して学外の企業や施設との会議の際に提案を行わなくてはならない。これらの実践的な活動の成果が、到達度の自己評価の結果に表れていると考えられ、内容的に十分に妥当であると考ええる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価から、特に「話し合う」「質疑応答」の機会が十分に確保でき ていたと評価された。多職種と協働で仕事を行っていく必要があるため、その 訓練ができたのではないかと考える。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本ゼミは、活動内容が多い上に、学生の自主性に重きを置いているため、時間外での話し合いや作業が多く求められる。2015・2016年度の総括として「履修学生が毎年入れ替わることを考えると、学生の資質によっては負担に感じる内容である可能性がある」と検討課題を示し、2017年度の活動では、ゼミ活動に関するオリエンテーションを行い、活動内容と時期、役割分担を詳細に確認する時間を設けることとした。これらの課題に関しては、2017年度は十分対応できたと考え、大学への出席率が低い学生が複数人参加していた2018年度では、これらの学生の参加状況が著しく悪く、対応に苦慮したことが反省点である。各堂項目が多く、学生間・学外者とのディスカッションが多い本ゼミの性格に対応できない学生がいることを念頭に置きたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	銀光

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①卒業ゼミでは、栄養疫学の知識を生かして、大腸癌の疫学と2型糖尿病の疫学について研究した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①発表成績の平均値は85点であった。論文の読み、説明は非常によかった。 ②昨年度と比べると、成績平均点は上昇した。 ③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は100%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者も100%で、知識理解、思考判断、技能表現、関心意欲、態度については目標が達成されたと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「演習」であり、実践能力、判断能力及び論理的思考能力を訓練する科目である。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断、意欲関心、態度及び技能表現に関し、すべて目標は達成した。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が4.8で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、 学生が参加する機会が設けられていた」の平均が4.8であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は5.0 で、授業の内容はよかったが、「説明は理解しやすいものであった」の平均が4.8であった。次年度に向けては、もっとゼミ生が自分で考え、自分で計画をして、研究を することを推進したい。 学生の意見として、感謝の気持ちを書いてあったが、今後もっと学生の学問に関する科学的考え方を育ていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	ゼミである本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、態度の面、技能表現及び意欲関心の面では課題をすべて達成した。 授業過程を振り返ってみたとき、授業中、勉強内容が少し狭い範囲で、今後、幅広い知識を吸収するよう努力を行っていきたい。 講義スライド、配布物(授業の参考資料)に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて授業進捗と内容説明について改善して行きたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	境田 靖子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	卒業ゼミのテーマ公開時に地域栄養活動の実践であることは説明しており、過去のゼミ活動を参考にしながら個々の目的をもって履修登録をしていると考えられるため、授業動機については様々である(中には、対人コミュニケーションが苦手、克服したいために選択した者もいた)。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の学習目標達成状況として、「自分なりの目標を達成した」は100%と高く、DP1(知識の確認・習得)が4.4点、DP3(学びを深めたい意欲)が4.3点、DP4(職業倫理・規範)が4.0点、DP5が(コミュニケーション能力)4.1点と、どれも高い達成度であった。 また、各自の担当部分の論文形式のレポート執筆にあたり、図書館等での調べ学習を行ったり、北九州市保健福祉局管理栄養士と共に事業をおこなったことから、参加型学習として質の確保ができた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	これまでの公衆栄養学ⅠおよびⅡ、公衆栄養学実習および地域栄養活動論の実践編として位置づけられ、卒業ゼミのテーマ公開時において「若い世代の食育実践」「ESDステーションでの食時診断会の実施」等、地域栄養活動の実践を行うことを説明しており、学外での活動であることを十分に理解した上での履修であることから、受講動機の準備性は適切である(関心のある内容57.1%)。さらに、地域活動の実践では不可欠である科目を横断した知識や技術を会得した上での実践により、さらに栄養士・管理栄養士として不足している点への気づきを促すことができ、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけに対する内容的妥当性は高いと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価、学習量の評価は、どれも高い評価であり、学生自身による学習の進行、および技術の習得を進め、授業運営は適切であったと考えられる。また、図書館のインターネットHP検索7人/7人中と他の科目に比べ高く、学生の自発的学習を促すことができた。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	専門科目の集大成である本科目(卒業ゼミ)は、自発的な学びと活動の実践を進めながら、専門知識と技術の習得を実践的に行うものであり、各学生の高い目標達成度からも授業の質は十分適切であると考えられる。食事診断会の実施後に振り返りの場を設けたことから、自己の力量不足または身に着いた力の気づきを促すことができ、自由記述からも高い満足度につながったと考えられる。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、4年間の集大成の科目である。ゼミのテーマについて調査・研究計画を立案し、計画に従って調査あるいは研究を実施することであり、将来、管理栄養士として直面する課題に対する解決方法を身につけることを目的としている。受講動機は、「関心のある内容である」と回答した学生が88%であった。昨年度の課題であった、「受講動機にばらつきがあること」への対応として、ゼミ選択時の説明でテーマについて詳細に説明することを挙げていた。今年度は、学生にテーマを詳細に説明したことから、テーマに関心のある学生が選択し、学習準備性も整っていたと考えられる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の最終成績は、「理想的レベル(80点以上)」に達し、到達度自己評価においてはすべての項目において全員が「そうだと思う」と回答している。学習量の評価では、予習復習や自発的学習に取り組み、主体的に学習していることが示された。また、各テーマに関する課題の取り組み状況や、ゼミ活動への積極的な態度が見られたため上記評価とした。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、4年間の集大成として位置づけられており、ゼミのテーマに取り組むことで専門的知識ならびに理解を深め、管理栄養士に必要な問題解決能力を身につけることを目的としている。 本ゼミのテーマは、ライフステージに応じた食育に関連した内容であり、また公開講座において体験的に学習することで、管理栄養士に必要な実践的スキルや知識の修得に繋がったと考える。到達度自己評価においても、専門分野においての各項目に対して平均4.0以上と評価が高いことから、専門的知識、理解が深まったと推察される。このことから、内容的妥当性については問題ないとする。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったと考えられるが、受講動機にばらつきがあったため次年度より説明の時に明確に内容を示すことが課題である。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、4年間の集大成として位置づけられており、ゼミのテーマに取り組むことで専門的知識ならびに理解を深め、管理栄養士に必要な問題解決能力を身につけることを目的としている。本ゼミでは、受講動機や学修の準備性にばらつきがみられたものの、実際には積極的に課題に取り組む姿勢が見られ、到達度自己評価も全体的に高かったことから、内容的妥当性はないものと思われる。 しかし、4年間の集大成という位置づけであることから、学習成果をより高めるためには受講前の明確な説明をすることが課題である。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	境田 靖子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅹ	4	後期	選択	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	管理栄養士受験資格必修科目であり、卒業必修ではないが、受講動機において必修科目であるが50.7%、資格取得に必要が64.4%となっている。本科目を履修している学生は、管理栄養士国家試験受験希望者のみであるため、必修科目＝資格必修と考えてると推察される。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学習到達度の自己評価においても、「知識の確認、修正、習得」は100%と高かった。また、学生による30分程度以上の準備を週に1回以上したものが79.7%と、ほかの科目に比べ高い傾向があるのも、「国家試験の合格」という明確な目標があるためと思われ、教育目標は達成されたと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は4年後期開講であり、大学全期間を通しての最終的な仕上げ科目である。管理栄養士国家試験の受験資格の必須科目で、専門職業人である管理栄養士としての就職が内定している学生も多いことから、受講動機および学習到達度も高く(98.6%)、科目の内容的妥当性は高いと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	教員は学生は購入した指定テキストを活用し、授業を進めた。また、学生 の授業記録についても「配布資料に記録」が89.2%と、受け手がちな他の 科目に比べ、積極的であることから、授業の進め方は妥当である。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	他の科目に比べ、自発的な授業時間外での準備・復習の率が高いが、定期 試験に不合格するものは、これらの自発的学習が少ないと考えられる。定期 試験さえ合格すればよいというより平常時から課題を貸すなどの改善が必 要と考えられる。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅰ	4	通年	選択	いいえ	84

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、管理栄養士国家試験を受験する者を対象とした「管理栄養士必須科目」であり、授業の内容は、国家試験合格を目指して、類縁科目を総合的に理解・把握するよう設計されている。従って、受講動機が「資格取得に必要である」に大きく偏っていることは必然として理解できる。 ②昨年度までは週に5コマ開講していたが、今年度より、新カリキュラムのもと週1コマの開講となった。 ③管理栄養士国家試験にとって極めて重要な科目であるが、週に1コマ程度の授業では国家試験対策としては到底不十分であるため、別途、国家試験対策の補講を、前期は、管理栄養士演習Ⅱと併せて週に7コマを、教員のボランティアによって実施している。 ④本科目は、国家試験の「午前中の部」の大部分をカバーするものであり、8名の教員によるオムニバス形式の授業とし、全体の様式を統一して受講生が戸惑わないよう配慮しながら学習の便宜を図っている。 ⑤本年度は、登録した受講者84名中、80名が受講を完了した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①今年度の期末試験結果 ・80名の受講者中、本試を1名が病欠、合格者64名、不合格者15名であった。病欠者1名は追試で合格し、不合格者15名は、全員、再試で合格した。 ・本試の結果は、平均点68.1で、秀0名、優10名、良29名、可25名であった。 ②管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱの本試総合結果、および、国家試験自己採点結果 ・管理栄養士演習Ⅱとの総合結果は、平均点は200点満点として141.7点、秀0名、優16名、良33名、可22名、不可9名であった。 ・国家試験の自己採点結果は、平均点は150.2点、秀該当者0名、優18名、良47名、可11名、不可4名であった。 ③従って、国家試験の結果は、管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱの総合結果比べて、大きな差はないものの、やや良くなっているのは、国試直前の努力の成果であろう。 ④これまでの国家試験合格状況について ・合格率は、第33回・今年度95.0%(95.5%)、第32回99.0%(95.8%)、第31回98.6%(92.4%)、第30回97.1%(85.1%)、第29回100%(95.4%)、であった。()内は全国新卒の合格率を示す。 ④「知識理解(DP-1)」および「思考判断(DP-2)」について ・良好と判断する。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は国家試験受験対策の科目であり、全員が国家試験に合格するためには、全員が標準以上の成績評価を得なければならない。学習の動機付けは容易であり、学生も、結果的に国家試験で良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から「知識理解」の達成度が高かったことと、これまで課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学生評価は、例年、学生自身が「国家試験を怖れて」と「受験勉強の苦しさ」のはけ口になっている面が強く出ているが、学生がもっとも強く望んでいることは「管理栄養士の国家試験に合格する」ことであり、その要望には教員は十分に応えてきており、教員個々人を誹謗中傷するような記述については参考にしない方針である。 (甲斐達男、岡部明仁)
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①昨年度から、4年生への進級時に国家試験受験資格を判定する制度を無くし受験資格を緩和しているが、今年度も例年と変わらない高い合格率を達成することができた。(甲斐達男) ②国家試験の結果が本科目の評価のすべてである。これまで試行錯誤しながら、さまざまな問題に対してそれぞれ工夫を施して対処してきた結果、担当教員の尽力が国家試験の結果に反映するようになった。本年度も昨年度と同様に良い成果が得られたことは喜ばしい。次年度も、担当教員の力を合せて対処して行きたい。 (甲斐達男、岡部明仁、船越淳子)
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅱ	4	通年	選択	いいえ	84

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、管理栄養士国家試験教科の『応用栄養学』『栄養教育論』『臨床栄養学』『公衆栄養学』『給食経営管理論』分野の出題傾向とポイントを理解することを目的としている。 本科目は管理栄養士受験資格の必修科目としての位置づけであることに加え、学生全員が『国家試験合格』を目標としていることから、多くの学生の受講動機が『必修科目である』『資格取得に必要である』との理由であるのは当然のことと思われる。また、カリキュラム改正に伴い、本年度より、管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱの週コマ数はそれぞれ1コマとなり、例年に比し、減少した。しかしながら、週2コマ程度の講義のみでは国家試験対策としては到底不十分であることから、別途、管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱ担当教員による国家試験対策の補講を実施した(前期:6コマ/週、後期:8コマ/週)。また、学習の準備性では、自らの国家試験合格のためということがあり、80%程度の学生において、予習復習時間は確保されていた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の本試験成績の平均値は74.4(±8.5)点であり、大多数の学生が標準的レベル(70点以上)に達することができたものと推察される。実際には本試験合格者は受講者80名中77名(96%)、『秀:1名(1%)』『優:27名(34%)』『良:28名(35%)』『可:21名(26%)』であり、標準的レベル(70点以上)は28名(35%)、理想的レベル(80点以上)は28名(35%)であった。学生の到達度自己評価では、95%以上の学生が専門的知識および技術の修得ができており、また、本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しているため、自発的学習として、『授業の課題以外に学習に取り組んだ(自由記述:国家試験の過去問等)』と回答していた。このことから、本科目における教育目標は達成できたものと予想される。その根拠の一つである管理栄養士国家試験合格状況(合格率)は『第33回(2018年度):95.0%』『第32回(2017年度):99.0%』『第31回(2016年度):98.6%』『第30回(2015年度):97.1%』『第29回(2014年度):100.0%』であり、高い合格率を維持している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、4年次に通年科目として開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の必修科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じであるため、本科目に対する達成度が高いことは明らかである。学生の達成度自己評価においても、95%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答し、達成度評価については、学生全員が国家試験合格を目標としているのであれば、全員が標準的レベルを達成すべきではあるものの、実際は70%であった。しかしながら、結果的に管理栄養士国家試験では非常に良い成績を修めていることから、内容的妥当性については問題ないものとする。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しており、自発的学習として、『授業の課題以外に学習に取り組んだ(自由記述:国家試験の過去問等)』と回答していたことから、予習復習の時間は確保されていたと考えられる。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、管理栄養士国家試験の受験資格の必修科目であり、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講している。また、本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しており、学生自身の管理栄養士免許取得のための科目として位置づけられていることから、学生の成績も概ね良好である。また、達成度自己評価においても、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しており、加えて、2018年度管理栄養士国家試験では非常に良い成績を修めたことから、講義内容等についての問題はないものとする。しかしながら、自由記述における担当教員への意見が多々見受けられたことについては、教員として真摯に受け止め、反省すべきことであり、早急に改善したいと考える。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、学生の参加意欲はある程度みられるが、教職教養科目であるため教師の専門性との結びつきは明確でないことが多い。 ○教育の現代的課題などと結びつけながら理解させることで、科目の意味を理解できるよう意識した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない		やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	○昨年度は、秀優良は0%、可は69.2%、不可30.8%であり栄養学科として過去最低の結果であった。 ○本年度は秀9.1%、優9.1%、良45.5%、可27.3%、不可9.1%となり、昨年度よりかなりの向上が見られた。平均点も72.4%で目安としている75%にあと一歩まで来ている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	○全体的にある程度満足できる結果であったが、知識理解の程度が複雑なものや 論述タイプの設問に苦勞する学生が目立ち、より応用レベルの学力を養いた い。 ○そのためには資料の読み取りやモデル図の活用などアウトプットを意識させ ながら授業に取り組めるよう指導していきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	○次年度は良と可の学生をそれぞれ秀優・良レベルへと引き上げられるよう、 基本的事項の理解定着を促す指導などを丁寧に行うと同時に応用的な事 項の取り組み方を具体的に指導していきたい。 ○また教師の立場から教育社会学の知見をどのように活用できるかという 内容を充実させることができるだろう。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育課程論	2	後期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教育課程論は前期に教職概論を受講した学生が教職への道を一步踏み込む科目になる。教員として知っておくべき諸課題についての基礎理論および新しい動向などについて教師のまなざしで見ることが出来る資質の習得を心がけた。 ②既に教職への関心を深めている学生なので、具体的な資料に基づいて思考を磨くことを試みた。 ③新学習指導要領の内容に踏み込んだ講義をした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	栄養学科の平均点は61.88であり、全体の平均値68.63を6.75ポイント下まわる。非常によろしくなかった。また、80点以上は1人もなく、8名中6名は再試験を受ける羽目になった。学生の自己評価もおおむね2.5～2.9と低く、8名中1～3名が「全くそうでない」「少しそうでない」に記入しており、5～7名、つまり大半の学生が「まあまあ」に入れている。その意味では凡庸な講義だったと考えられているようだ。にもかかわらず非常に成績はよろしくなかった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「ブログにも私たちのことをブログに書いていた。こんな大人に教育について学ぶのはどうなんだろうと不安になったし、まじめに授業を受けていたのに自分も言 われているようで悲しかった。」という指摘があった。これはあくまで大学の授業で起きている課題の解決と問題の共有化という目的があるものだ。教育方法上の課 題は個人的に閉じたところに置いてはならないのであって、当該ブログ全文と説明を併せて全ての学生に配布し、理解をはかっている。 また、「説明もわかりにくく答えも提示されないため、学ぶことができない。テストの範囲も明確ではないため勉強の仕方もよくわからない。」という意見もあったが、 「唯一の正解」を求める学生にとっては「正解がいくつもある」課題については理解しづらいようである。この点、時間をかけて説明していく場を設けていきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	主体的・対話的で深い学びという文科省の提案が此处では躓いてしまったようだ。それをどう理解させるかが課題だ。
-----------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校栄養指導論Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、学校栄養指導論Ⅰの内容を踏まえ、小学校、中学校での食に関する指導において、児童・生徒が理解しやすい内容の授業を組み立て、実践につなげる力を身に付けることを目標としている。栄養教諭を取得するために必須であるため、受講動機は必修科目である、資格取得に必要であると回答している。授業計画は、4年次での栄養教育実習にむけて必要な知識や技術を修得できることに重点をおいて実施した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の受講者は12名であり、少人数のため客観的な評価は困難であるが、最終成績は「理想的レベル(80点以上)」に達し、到達度自己評価では、全てにおいて「そうだと思う」と答えている。成績評価は、筆記試験、模擬授業、提出物で評価した。以上のことより、概ね教育目標は達成されたと考える。しかし、思考判断、技能表現に関しては、模擬授業等を通して栄養教諭として理想的なレベルに達しているとは評価できなかったため、この2点に関しては栄養教育実習に向けての課題であると考えている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、4年次の栄養教育実習を見据え、食の指導を実践する力を身に付けることを目標としている。そのため、授業内容は、学習指導案の作成や模擬授業の実施、毎時間のスピーチを取り入れる等、体験を通して学習できるようにしている。しかし、学生の進捗状況に差があるため授業だけではなく、学生の理解度に合わせ、適宜個別指導を取り入れていきたい。 年度により人数の変動のある科目であることから、履修者数や学生の特性に応じて授業方法を検討していきたいと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	本科目は、4年次の栄養教育実習を見据え、食の指導を実践する力を身に付けることを目標としている。そのため、授業内容は、学習指導案の作成や模擬授業の実施、毎時間のスピーチを取り入れる等、体験を通して学習できるようにしている。しかし、学生の進捗状況に差があるため授業だけではなく、学生の理解度に合わせ、適宜個別指導を取り入れていきたい。 年度により人数の変動のある科目であることから、履修者数や学生の特性に応じて授業方法を検討していきたいと考える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は、履修者数が少人数であり、授業評価からは客観的な評価はできないが、概ね教育目標は達成されたと考える。課題は、栄養教諭としての表現力や思考判断力が理想的レベルに達していなかったため、次年度は個別指導を取り入れる等、改善に向けて検討していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
事前及び事後の指導	3～4	三期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、これまでに履修した教職科目の理論や技術をもとに、教育現場における実践的な食の指導を体験するための栄養教育実習を受けるに当たって、心がまえや予備知識について理解することを目的としている。また、教育実習の成果が高まるように、食の指導にかかわる授業研究について模擬授業を通して実施している。実習後においては、実習中の反省、問題点の整理・分析を行い、今後の課題が明確に認識できるよう報告会を行い、栄養教育実習の学びを十分に高めることに重点を置いている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目は、受講生が11名のため客観的評価は困難であるが、最終成績、教育実習校からの評価、授業評価の結果より、教育目標は概ね達成されたと考えられる。また、学習量の評価では予習復習を十分に取り組んでいることから、到達度達成度の評価も高かったと推察される。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、「専門教育科目」の中の「教職に関する科目」に位置し、栄養教育実習の事前指導および事後指導のための科目である。事前指導では、教育実習の基本的な知識を身に付けること、事後指導では実習の修得内容から、今後の課題を明確にすることを目的としている。実習校からの評価や実習報告会を含め、総合的に判断し、内容的に妥当であると考え。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	受講生が9名であったことから、理解度に合わせて丁寧に進めることができた。最終成績、実習校、受講生の達成度評価のいずれも高い評価であったため、本科 目の教育目標は概ね達成できたと考えられる。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	受講生が9名であるため客観的な判断は困難であるが、本年度は総合的に判断し、概ね達成できたと考えられる。本科目は、年度で受講人数に変動があるため、状 況に応じて臨機応変に取り組むことが課題である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職実践演習(栄養教諭)	4	後期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、これまでの教職課程での学習と栄養教育実習を振り返りながら、栄養教諭としての使命感や、実践的技能と資質・能力の向上を目標とする。栄養教諭を取得するために必須となる科目であるため、受講動機は資格取得に必要であると全員が回答した。本科目では、将来、栄養教諭となる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能を補うことに重点をおいているため、開講時に各自の栄養教育実習の経験を踏まえ課題整理を行った。課題として挙げられた、指導力不足(板書、問いかけの方法など)、知識不足、表現力不足を解決するために、授業計画を行い実施した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目は、受講生が9名であり客観的評価はできないが、成績と達成度自己評価より教育目標は概ね達成できたと考える。成績は、提出物、発表(模擬授業及びプレゼンテーション)により評価を行った。 学習量の評価では予習復習への取り組みは見られ、栄養教諭として自ら学ぶ姿勢が見られた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」の中の「教職に関する科目」に位置し、栄養教育実習を終えた後の教職科目の集大成となる科目である。そのため、栄養教育実習を振り返り各自の課題を見つけ、課題を解決し、栄養教諭として社会にでるための実践的技能と資質・能力の向上を高めることを目指している。学生の最終成績や到達度の自己評価から内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 本科目は、栄養教諭としての知識・技術の修得や、コミュニケーション能力や表現力を高めることを主な行動目標としている。各自の課題から、模擬授業や研究授業の見学など、学生が体験を通して学べるような授業とした。そのため、到達度自己評価では、高い評価となっていることから、内容的に
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目では、将来、栄養教諭となる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能を補うことを目標としているため、開講時に各自の課題整理を行った。課題として挙げられた、指導力不足(板書、問いかけの方法など)、知識不足、表現力不足を解決するために、模擬授業やプレゼンテーションを実施した。また、外部講師として現職の栄養教諭(中学校)を招き、講義後に交流の場を設けることや、小学校への研究授業の参加、教育現場との積極的な関わりを通して、栄養教諭の職務や意義と役割を再認識することに重点をおいて実施した。 次年度も学生の課題や特性を考慮し、授業計画を行いたいと考えている。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、栄養教諭を取得する学生にとって集大成となる科目である。教育者になることを自覚し、自己の課題を持って授業に取り組む姿勢が求められる。授業は、学生が主体的に学べるように演習や体験を多く取り入れた内容とした。また、学科横断的な取り組みとして、他学科の学生ともグループワークを経験し、それぞれの教育実習の経験からディスカッションを行うことで、他教職員との連携やコミュニケーション能力を培うことに繋がったと推測する。以上のことから、授業全体を通して教職科目の集大成として概ね目標は達成できたと考える
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学(新約聖書)	1	後期	必修	いいえ	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①「学生の授業評価アンケート」(学科の全体70名)を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが100%であって、他の動機は「単位数確保」が5.7%であった。ほとんどがキリスト教に初めて接する状態であったことから、授業は前期の復習を含めて受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1に建学の精神である「感恩奉仕」との関係と目的を再度、最初に明示した。具体的には、総合人間科学の科目として、専門分野の科学の基盤となる重要な「自己理解」と「人間性」に関わる科学であることを説明した。第2に、シラバスにより評価基準を明示した。しかし授業の質評価を見ると、＜評価基準は明らかであった＞の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「11、25、34」で97.2%であり、否定的回答の「少し」「全く」は「2、0」で2.8%であった。②「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与えられるというシステムを作り活用し、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③ 総合人間科学の科目であり、理解力を助けるための具体的なメタファーや例えは、可能な場合には栄養学科と関係のあるものを用い、キリスト教学の知識や理解を専門職との関係で蓄積できるように工夫した。④ 期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要なテーマに関して自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績を見ると、60点未達は1名であり、成績で見る限り、知識理解はほぼ目標に達した。② 学生の＜知識＞＜理解＞に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順(以下同)にそれぞれ「13、26、28」と「13、23、34」で 98.6%と97.2%であり、否定的回答は「少し」「全く」の順に「1、0」「2、0」で1.4%と2.8%であった。③ 専門分野での達成自己評価では、思考判断に関する＜検討する力＞＜判断する力＞に関しては、肯定的回答は「8、25、36」と「7、24、37」で95.8%と94.4%であったのに対し、否定的回答は「3、0」と「4、0」で4.2%と5.6%となった。④ 専門分野でも＜意欲＞では肯定的回答は「9、22、37」で94.4%であり、否定的回答は「3、0」で4.2%で、無回答が1名あった。⑤ さらに専門分野の＜技術＞と＜コミュニケーション、表現力＞の習得では、肯定的回答はそれぞれ「7、25、36」「9、24、37」で94.4%と97.2%であったのに対し、否定的回答はそれぞれ「3、1」と「2、0」で5.6%と2.8%であった。⑥ 学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「9、25、36」で97.2%であったのに対して否定的回答は「2、0」で2.8%であった。⑦ ＜職業選択の参考＞では、肯定的回答は「7、21、38」で91.7%であったのに対し、否定的回答は「5、1」で8.3%であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となり統合する総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、＜知識＞＜理解＞ではそれぞれ1.4%と2.8%であった。専門分野の学習において＜検討する力＞と＜判断する力＞ではそれぞれ4.2%と5.6%であった。＜意欲＞では4.2%であった。＜技術＞＜コミュニケーション、表現力＞習得では5.6%と2.8%であり、＜倫理・規範＞に関しては2.8%であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、社会人としての教養を身につけるための＜知識＞＜理解＞ではそれぞれ1.4%と2.8%、責任を自覚し倫理に基づく行動ができるようになるための＜倫理・規範＞は2.8%であった。課題を解決のための論理的思考・判断にかかる＜検討する力＞＜判断する力＞はそれぞれ4.2%と5.6%、及び保健、医療、福祉への関心を持ち、健康増進等への貢献する＜意欲＞並びに、＜技術＞の習得という専門分野と、適切な関係を形成する＜コミュニケーション、表現力＞に関しての否定的回答は、2.8%と5.6%の間であった。③ 以上から、CPの位置づけから肯定的回答は非専門と非技能表現の分野、専門と技能表現の分野、いずれも90%以上であり、授業内容は妥当であると考え。また、DPの位置づけからも、肯定的回答は、非専門と非技能表現の分野と、専門と技能表現の分野とにおいて同様なことが見られ授業内容は妥当であると考え。すなわち、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥当であったと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	① 学生からの担当教員へ意見は予復習につき、何をすれば良いかわからないという学生には、第1回目授業から配布している「自己学習記録」に毎週の「復習の読書テキスト・予習の読書テキストとその時間」を記載する枠を設け頻繁に喚起し、学習量の増加を奨励した。② 学習量の評価を見ると、＜配布資料に記載＞が56人、77.8%、＜自分なりのノート＞が0人、＜記録しなかった＞は14人で19.4%であった。＜1回30分以上の予復習＞6回が4.2%、4,5回が1.2%、2,3回が13.9%、1回が23.6%で、0回は58.3%であった。③ 授業の質評価を見ると、＜評価基準は明らかであった＞の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「11、25、34」で97.2%であり、否定的回答の「少し」「全く」は「2、0」で2.8%であった。＜理解しやすい＞という項目では、「9,25,35」で95.8%であり、否定的回答の「少し」「全く」の順に「2、0」で2.8%で、無回答1名であった。＜参加の機会＞では肯定的回答は「9,20,38」で93.1%あり、否定的回答は「3,1」で5.6%で、無回答1名であった。＜学生の質問への答を得る機会＞では肯定的回答が「9,24,37」と97.2%であり、否定的回答が「1,1」で2.8%であった。④今後のこととして、学習量の改善が必要であり、予復習の方法と奨励につき工夫をする。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	① 授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を今後も明確にし、予習・復習の必要性和具体的方法を繰り返し喚起することが必要である。② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。加えて、この科目は実学であって、学生の専門分野での＜的確に判断する力＞及び＜その学びを深めたいと意欲をもつ＞ことの基盤となるものである。この科目の知識理解を増すことは、専門分野での統合的な判断力及び意欲の基盤を強くするものである。そこで、＜授業の進め方とその向上について＞に記載した改善策に取り組む工夫をする。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅡ	1	後期	必修	はい	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	大学は、学生自らが目的をもって主体的に学ぶ場であり、基礎的な知識の上に、着想力、論理性、表現力、独創性などの力が求められる。これらの力を獲得するためには、ただ単に基礎的な知識を効率よく覚えるということではなく、自らが積極的に課題を探究していく姿勢をもたなければならない。本セミナーは、初年次セミナーⅠおよびⅡで構成されており、スタディ・スキルズを身につけ、大学での学びの質を高めることを目的とする。 初年次セミナー1では、個人あるいはグループでの学習活動を軸に、大学で学ぶためのスタディ・スキルズの基本である『聞く』『調べる』『読む』『書く』『考える』の強化を図る。具体的には、講義の聴き方、ノートの取り方、本の読み方、レポートの書き方、より深い学びを得るための文献検索、インターネット等のICT活用法など、大学で主体的に学ぶ技法の習得を目指す。また、情報倫理に基づくメディア・リテラシーの習熟を図る。 受講動機は、必修であるが故に動機の特長は見出せない。また、学生の入学時の状況は、学修の準備性は期待できない。この科目は学習の準備方法を教え、準備性を高め、学習効率を高めるためのセミナーである。本講の受講後に格段の学修準備性が高まると考える。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の本試験成績の平均値は84(±5.0)点であり、標準的レベル(70点以上)に達した。本試験の難易度が低かったのではなく、全学生の修得意欲に個人差が無かったと考える。 これ以上は意味を持たないが、理想的レベル(80点以上)は53名(69%程度)、標準的レベル(70点以上)は78名(100%)であり、全受講生が標準的レベル以上を達成できた。 「自己達成度」は平均値が全項目で3.8～4.1の間(中央値4)にあり、「授業の質の評価」も4.0～4.3であった。 ただ、予習、復習の課題がないため授業以外の取り組みは74%(53名)が何もしていなかった。シラバスの情報を参考にしたもの60%(41名)、図書館を利用したもの58%(42名)と、利用者は過半数を超えていた。 本科目の内容は、大学の講義を受講する上で、管理栄養士国家試験のための学習を成就する上で極めて重要である。更には、自発的学習へ繋がり、定着することが重要である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は学習の動機づけが十分達成できており、学生も一定レベル以上の良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ② DP、行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から「知識理解」「思考判断」「意欲関心」ともに達成度は高かった。授業中のフィードバックも十分なされ、授業内容は妥当であったと考える。 以上から、内容的妥当性は問題ないとする。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価については、平均値が4.0～4.3であったことから、 授業の進め方は良好と考える。 しかし、学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習、復習を まったく行っていなかった学生がそれぞれ25%(18名)、50%(36名)いた。 また授業課題以外の学習に取り組んでいなかった学生も74%(53名)と非常 に多かった。また、授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由とし て、「他で忙しかった」、「特にすること・課題がなかった」が多かった。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	大学での学びの質を本講で高めることが出来たという実感が、学生に 評価されている。しかし定着し、実践できるようになり、研究や実習、 ゼミ、更には修飾語も活かせるよう体得出来ることが目標となるので、 更なる充実した内容に進化したい。 本講の他の側面として、演習的なグループ作業や、アドバイザーとの 協力的作業等を通して、「学生間の仲間づくり」、「学生間の信頼関係」、 「個性と役割分担」、「教員との一体感」、「教員のふれあい」等等、 様々な教育に貢献できる効果が得られ、これまでの講義ではえられ ない「学生と学科教育」に重要な時間であったと考える。更に大学生 の学びの質向上に役立つ内容の充実を図りたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生涯スポーツ	1	後期	選択	はい	59

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講者には、夏休み明けと後期末における体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、実体験した運動量と、自己の身体組成や健康度との関係が把握できるようにした。 ②各受講者は、自己の体格に合わせた最適運動量を算定し、各自にカロリーカウンターを貸し出し装着させ、毎時間の自己の運動量を記録し把握させ、運動意欲を喚起した。 ③1および2について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。 ④生涯スポーツになりうる種目を選択肢に置いて、職場や地域で行われている個人またはペア種目であるラケットスポーツを導入した。 自己の技能到達度の把握とそれに基づく技能獲得目標の設定、ルールや競技器具の正しい使い方と物理的性質の把握による種目の理解、ペア同士の個人的理解に基づく勝利を目指した積極的チームワークの形成を促した。その結果、参加態度は積極的行動に変わったと思われる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①59名が受講し、最終的な成績の平均値は91点で、再試験対象は0名で履修放棄1名あった。全員が標準的レベルに達したと考える。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは46名と、欠席する者少なく全員が積極的に受講していたと考える。14名(28%)が資格に必要と答え、関心有り37%と、目的は様々であった。 ②アンケートに答えた51名中、目標到達ができたと答えた学生は50名で、非常に様々な学習効果をもたらしたと考える。(知識の取得51名、理解思考力アップ50名、課題解決力獲得50名、判断力獲得50名、意欲向上50名、技術獲得50名、コミュニケーション力50名、職業倫理行動規範学習50名、職業選択の参考50名) ③授業の質について、良好と言う回答が大多数であった。ほぼ質的に良い状況と考える。(評価基準明確49名、学習課題明確50名、分かりやすい説明51名、学生の意見交換発表の場あり45名、質疑応答の場あり44名) ④学習量では51名中、全く予習しなかった者37名、復習しなかった者22名、授業以外の学習なし39名と、普段の生活での身体活動遂行には至っていないと思われる。 ⑤授業の情報利用に関して回答者51名中、シラバスを参考にしなかった者は27名、授業計画を立てなかった者29名、シラバスで受講計画した者22名中8名、教員の説明での受講は22名中10名で、半数がシラバスを参考にし、加えて教員の説明は重要と考える。 ⑥授業に関連した図書館の利用をしなかったもの者(51名中)は50名、データベース利用しなかった者50名、インターネット検索しなかった者50名であった。携帯の検索で十分調べられる事も増えるので、その利用は考慮しない。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達づくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、管理栄養士としての運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。学生は積極的にであり一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況によっての言葉かけのタイミングを検討したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
文学	1	後期	選択	はい	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	日頃、文学的考察といった内容を意識しない学生たちに、表現することの大切さを今一度思い起こすべく、関心の湧く題材をテーマとする文学作品の意義や本質を提示しながら、表現、発想、視点の転換を中心に、文学をなぜ学ばなければならないかということを教授した。自身の進もうとする専門と文学が何故繋がっているのか、そこが明確でなければ、文学という講義を忽ち馬鹿にしたり、必要ないものという浅はかな結論でくっってしまうからである。文学的考察は、人の心、時代背景、歴史観、言語、表現といった全ての事柄を含むので、ひいては最終的に「生きてゆくために」必要不可欠な概念であることに気付くことを目的として講義した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	栄養学科の中で特に、文学の講義に関心を抱く学生がいたが、その学生の真摯な瞳が忘れられない。現在、彼女たちが問題としているような課題点と共通する視点でまず理解すること、その次の考察として全く違う視点でもって考えて見ることの、ものの見方の相違を学ばせることに力点を置いた。学科特有の解釈の違いはあるが、学生自身の学びの自覚が見られて後、徐々に75%あたりまでは伸びたように思う。少数の学生は私の休校を不満にしたり、していたが、大方の学生の反応は素直であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムマップ等々における本科目の位置付けから見た内容的妥当性は良かったと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	講義中、ぐったりと疲れている学生が目立つ時期があった。そのような時は臨機応変に趣向を変えて、楽しく明るく文学的小話をしながら、また、学生たちをほぐしな がら、文学の要を話すように努めた。しかしながら、相対的にまじめに取り組んでいたようである。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	達成状況の総括的評価としては、75%である。工夫を重ねてゆきたいと考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、「資格取得に必要である」62.1%、「単位数を確保する」34.5%であった。教職必修科目であり、栄養教諭志望の学生が履修者の一定割合を占めていると思われる。2016年度から選挙権の年齢が18歳以上に引き下げられたことから、2017年度より講義計画を変更し、統治機構に関する講義を基本的人権に関する講義より先に行った。また、憲法は学生自身の今後の生活や人生に関係が深い、ということを明確に伝えることを心掛けた。なお、欠席率は平均12.37% (1回あたり4.8名)であった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	後期試験の平均点は70.57点であった。成績は後期試験をベースに、コメントの記述内容について若干加点 (最高10%)することで総合評価とした。その結果、再試対象者は2名 (ほか放棄者1名)、理想的レベル (80点以上)に達した者は4名であった。学生による到達度自己評価については、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値が3.6のほかは、すべての項目について平均値が3.4-3.5の間にあり、昨年度よりやや上昇しているが、依然として他学科に比べて低い数値にとどまっている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、教職指定科目でもある。しかし、履修の際にシラバスを参考にした学生が約4割であることから、学部学科全体で履修登録の際にシラバスを学生に読ませ、理由の際の参考にするよう、働きかける必要がある。将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、援助の対象者を人権の主体たる個人として理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。②DP行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないとする。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「説明は理解しやすいものであった」の平均値が3.6、「評価基準は明らかであった」、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値はともに3.4であった。昨年度よりやや低下している。2017年度より毎回講義終了後に学生にコメントを任意で提出する機会を与え、毎回3名程度の学生が提出していたが、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値が3.3にとどまった。同時限で行っている看護学科と比べても提出者の割合が少ないことに加え、コメントの内容についても感想がほとんどで質問や意見が極めて少なかった(ゆえに授業であまり取り上げるコメントがなかった)ことによると思われる。他方、講義の冒頭で予習・復習の具体的な仕方について説明したが、予習を全くしなかった学生は16名、復習を全くしなかった学生は15名であり、昨年度より減少したが、依然として履修者の半数が予習・復習をしていないことになる。今後は予習・復習の必要性和具体的な方法についてより丁寧な説明を心掛けたい。授業以外に学習していない理由として「機会がなかった」、「時間がない」などの記述が見られた一方、授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習として「問題をとく」、「プリントの見直し」が挙げられていた。学生の意見は特になかった。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、社会人としての基礎的な教養としての、基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣が定着する方策を検討したいと考えている。
------------------------------	--

学科	栄養学科
氏名	桐原 隆弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
人生と哲学	1	後期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	哲学の授業を受講するのは大半の学生にとって初めての経験であると考えられる。したがって、初学者にもわかりやすいように日常生活の事例を哲学思想と関連付けて説明するよう心掛けた(たとえば経験と習慣づけによって徳が習得されるとするアリストテレスの思想をアルバイト経験と結び付けて説明することで多くの学生が共感してくれた)。あまり事項を広げず、アリストテレス、功利主義、カントの思想のエッセンスを、日常生活の事例を用い、かつそれぞれを比較しながら繰り返し説明することを心がけた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	わかりやすさという点で言えばまだまだ課題は残るが、試験では学生たちはおおむね授業の趣旨を理解して的確に解答していた(テキストだけでなく板書や口頭の説明を網羅して非常に高い水準の論述答案を作成した学生もいた)。授業評価はおもにわかりやすさが評価基準となると思われるが、本講義のような科目においては各受講者それぞれの観点からの知的好奇心を喚起することがなにより重要である。「人生」の問題を「哲学」的思考と結びつけて考えることにいくらか関心をもつ学生には響くものがあつたと思われるが(実際、毎回欠かさず授業後に質問に来る学生もいた)、現段階で関心のもてない学生はどうしても「難しい・難しすぎる」といった印象を受けるものだと思う。したがって、多数の学生ではなく少数であっても知的好奇心に応える内容だったと受け止められたならば授業に関しては十分目標が達成されたと考える。また「この授業を通して何を得たか」は、試験準備と試験結果をふまえてようやく把握できるものだとなれば、試験答案を見る限り、授業の趣旨は多くの学生に十分伝わったものと考ええる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	到達度の自己評価を見る限り、各自の目標はほぼ到達されたと考えられる(ただし、学期終盤・試験前の自己評価であり、試験後に自己評価を行えばより正確な評価が得られるものと考ええる)。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	板書が見づらかった、板書の追加などによりノートが取りづらかった、誤字があつた、初心者には難しすぎた、など厳しい指摘を受けた。真摯に受け止めたい。とくに板書についてはあとから追加・修正するなどノート作成上余計な手間を要することを控えたい。また説明のわかりやすさについても、日常生活の事例をさらに工夫して取り入れ、より馴染みやすい説明を心掛けたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業については改善点(板書、説明)が多々ある。試験については各自十分準備し、授業の趣旨を理解して臨んでいたと思う。人生の諸課題に哲学的観点からアプローチするという試みに、より多くの学生が興味を持てるように工夫したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話入門	1	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course aimed to provide the opportunity to practice basic English communicative discourse for non-English majors. It aimed to have students gain an interest in English and how it could be applied to their future field of work.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	The students were generally enthusiastic towards the activities provided and participated actively. Their final scores reflected their effort in class, with those who did well having regularly shown more active participation overall. Lower scores were generally a result of irregular participation and effort in the class, which reflected in their ability to fulfill the assessments satisfactorily.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Their understanding of and skills to communicate in English improved during the course, as indicated by the rise in confidence displayed during the course. This is reflected in the feedback that they provided.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	There were no significant problems evident in the course. The biggest challenge would have been the disparity in basic abilities that they brought to the class initially. This made it sometimes a bit of challenge with newer material and for pairing of students for the group activities.
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	Generally, the course was successfully concluded. As is more often the case than not, those students who put more effort into the course came out with better results, better skills, and a better understanding.
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	Marne Saddy

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話入門	1	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course is divided into both Skills and Communication based learning. In this class, students used the textbook “Four Corners 1” (Cambridge) to practice 4 essential skill groups; reading, writing, listening and speaking. In addition to the use of dialogue drills for listening and speaking, students also practiced with information gap exercises, role plays, reading comprehension, and vocabulary building exercises. These exercises helped students review and reinforce their basic English skills.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Assessment was based on attendance 15%, class work 30%, homework 25%, presentations 10%, and a final test 20%. Final grades were mostly in the 75-80% range.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students took advantage of helping and receiving help from other class members, by working together in small groups. Good classroom dynamics created a positive and “safe” class atmosphere in which students felt more comfortable taking risks when expressing themselves in English. This, in turn, contributed to a high level of participation and increased understanding of the material.
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	Better use of supplementary materials and more student-teacher interaction would be an added benefit, if time allows.
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	More detailed instruction on how to use class workbooks to encourage careful note taking, completion of homework and lesson review may help keep students focused on clear objectives for each class. After initial instruction, students should be encouraged to complete class workbooks without the guidance of the teacher in order to save class time.
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハンゲル発展	1	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	前期で習得した知識や学習のコツなどを踏まえて、さらに韓国語に対する知識を深く身に付けられるよう、筆記や会話の練習を取り入れながら分かりやすい授業になるよう心がけた。また、受講動機は「関心のある内容」が九割近くを占めていたこともあり、韓国の社会や文化などにも触れながら授業を進めていくことで、語学の習得と韓国社会や文化への理解の相乗効果が得られたと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎回行う小テストでは復習の成果が現れており、授業内容の理解度は悪くはなかった。到達度自己評価においては3～4点がでており、授業の質評価でも3～4であったことなどを根拠と考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は語学学習を通じて韓国という国、地域、社会や歴史に興味を持ち、言語に現れる文化などの違いを理解し、また、習得した韓国語を実際に話してみることによって、異文化圏の人々との相互理解の一助になるものと考えられるため、「社会人としての基礎的な教養を身につけている」としたDP1-1に沿うものであり、カリキュラムマップにおける本講義の位置づけからみた内容的妥当性は問題ないと考えられる。しかし「他の保健・医療従事者と連携・協働して、専門的な知識・技術を実践に活かすことができる」と定めたDP5-1について、本講義では医療の専門的用語の学習はおこなっていないが、意思疎通が図れることにより連携・協働が可能となる意味では内容的妥当性は問題ないと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	授業の進捗は毎回行う小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、極力全員の理解度が揃うように内容を見直したりして授業のペース配分に重点をおいた。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本講義は、前期で身につけた基礎的学力を踏まえて、発展的な文法知識の習得と日常における実践的会話能力が備わることを目指しているが、講義の履修後にも韓国語を継続的に学習し続ける学生が少なくないなか、そうした学生が今後も多く現れ、韓国語によるコミュニケーション力をもってして日本と韓国の相互理解を深めていける人となれるよう、今後とも微力ながら努めていきたいと考える。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	相良 かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報処理演習	1	後期	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本授業は、1年次後期開講の選択科目であり、今回の履修生は18名、受講動機は「単位数を確保する」が88.2%、次いで「関心のある内容である」が35.3%であった。 授業の実施で大切にしていること、重点を置いたことは、社会（職場、家庭、地域）と自分との関係について、気づきや思考する機会があるように教材を工夫したことである。 具体的には、タイピング教材には「男女共同参画基本法」を、Excel（統計処理）の教材には、①国立女性教育会館で作成・公開されている「ミニ統計集 日本の女性と男性」および、②実際のクレジット会社と銀行の金利を使った利息計算、そして自分の住む町について調べ分析し課題を見つけ、その課題解決について企画書およびスライドを作成する演習を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	シラバス記載の行動目標について授業アンケートの際に各自で3段階評価した結果、「出来る&何とかできる」と回答した割合は以下の通りである。なお（ ）内は昨年度のデータである。 100%(96%) 社会および家庭での情報活用について紹介できる 100%(100%): インターネットを利用する上での危険とマナーについて説明できる 93%(100%): 分かり易いリーフレットおよびスライドの作成ができる 100%(100%): 適切に情報検索することができる 成績の評価は、A評価は20.3%(10.3%)、B評価20.0%(37.9%)、C評価35.8%(13.8%)、D評価20.0%(0%)、E評価0%(0%)であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は1年次後期開講の総合人間科学に属する科目である。 1年次前期の情報科学演習1では、学生生活に必要な内容(学生としての自分と学び)を重点にし、後期の本情報科学演習2では社会と自分との関係に重点を置いた内容にしている。 前述の学生の目標達成状況から、DP,CP,カリキュラムマップ上、内容的に妥当だと考えている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	昨年2017年度の授業より、Excelを使った記述統計の演習を増やし、2年次後期開講の「健康情報処理実習」においてSA(Student Assistants)の役割を果たせる学 生の育成を目指し、Excelの演習とプログラミング実習(マクロとVBA)の演習を行った。その結果、到達目標の(3)分かなり易いリーフレットおよびスライドの作成がで きるの到達度が93%と下がっている。 カリキュラムの変更に伴い、履修生が減少し、受講動機も単位数を確保するための割合が高くなり、必ずしも意欲のある学生が履修している訳ではない。 そこで、今後は履修生の減少を踏まえて、SAの役割を果たせる学生の育成ではなく、それぞれの学生の技能が向上するよう学生の技能に合わせた指導を行う予定 である。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	達成状況はおおむね良好だと考えている。
------------------------------	----------------------------

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キャリア開発	1	後期	必修	いいえ	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	個人的な体験が労働政策や福祉政策、教育制度などの現在の社会構造とどのように関連しているかを理解できるよう、社会学的視点で現状を分析できる力をつけることに重点を置いた。そのために、メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど情報を読み解く手法を伝えた。また、その社会構造の中で人生を選択してきた多方面の分野の外部講師を招聘し、個人の体験や専門的な領域について講話してもらい、学生に自己決定の重要性を実感できるようにした。特に、1年次の必修であり、この4年間の学生生活がキャリア形成にいかに関与しているかを理解できるよう努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業中のミニレポートでは、外部講師の話からこれまでさほど意識していなかった問題、例えば、労働問題などが実は身近な重要な課題であることを理解している学生は多かったことが確認された。また、。到達度自己評価から、社会の現状を分析的にみる視点の確保はある程度獲得できたと判断できる。ただし、試験結果からは個人的な体験や将来のキャリア形成とどのように関連付けるかについては、理解の格差がみられた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1年次の必修であるため、キャリア形成への関心を広げ、充実した今後の学生生活につなげるよう学生をエンパワーしている点では、内容は評価できる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	栄養学科は職業選択の道筋が見えていることから、それを踏まえたうえで個人のキャリア形成を考えるよう随時働きかけた。ただし、受講者の数が非常に多く教室も 広いため、受講生同士の意見の交換や講師とに質疑応答が難しいことが課題となった。また、職業選択の方向性の異なる他学科の学生も受講している中で、専攻 科目とキャリア形成を具体的に関連付けるための自主的な時間を十分に確保できなかった。今後は、学籍番号順に座席を決めるなどして、意見を得やすい環境を 整備する。多彩な外部講師の存在は新たな知識を得て、社会事象を理解する視点の獲得に役立ったが、網羅的に受け止める学生もいたため、今後は、授業全体の 流れを体系的に理解できるよう初回での説明を十分に行う。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	多様なキャリア形成について、自分の人生と結び付ける力はある程度身につけたものと思われる。情報を読み解く力を現実の生活の中で活用し、自尊感情を伴う自 己決定できるよう、キャリア形成についての理解を深める必要がある。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用生理学	1	後期	選択	いいえ	82

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教科書の図を順序通りに説明を行うことにより、学生がメモを取る時間を極力軽減し、説明を聞く時間を多くとり講義時間内に理解してもらえるように取り組んだ。説明文は、教科書と同じ文章を用い、教科書に印をつけるだけでキーワードを含んだ文章を探し出せるよう講義スライドに記入した。 ②講義資料は、最終的に「講義資料配布システム」に全てアップロードし、いつでもどこでも復習できるようにした。 ③管理栄養士国家試験において得点率が低い分野であること、また調理や栄養に直接的な関連がわかりづらい分野であり且つ初年次での履修となるので、興味を持ってもらえるよう身近な病気・病態や生理現象をできるだけ多く提示した。 ④試験問題の傾向を学生に知ってもらうため、定期試験前の講義内で小テストを行い復習への意識を高め、学習状況を学生自身が確認できるよう工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①今年度の結果 本試験の合格者は80名中75名で再試験者は5名であり、再試験の結果2名が再履修となった。最終成績の平均点は71.5±7.9点であり、標準的なレベル(概ね70点以上)に到達していると考えられる。標準的なレベル(概ね70点以上)は44名と受講者の半数以上おり、理想的なレベル(概ね80点以上)が17名いた。来年度は、全体として理想的なレベル(平均点が80点以上)になるよう、工夫したい。具体的には、講義資料を前もって予習してきてもらうなどを考えている。 ②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」及び「授業の質」において、「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な評価が90%以上である項目が多いが、「コミュニケーションや表現力」、「職業倫理や行動規範」、「学生が参加する機会」などについては、「少しそうでないと思う」以下が若干名いることから、このような機会を講義の中で作っていくことを次年度の課題とする。 ③「図書館、インターネットの利用」が非常に少なかったため、課題を与えて図書館等の利用を促したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験にも一定の割合で出題されており、専門的な医学系科目を学ぶための基礎知識を学習するものである。調理や栄養と直接的な関連性が分かりづらい科目ではあるが、学生も一定の成績を収めていることから、内容は妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 成績評価と学習到達度についての学生の自己評価からみて、目標を標準的なレベルでほぼ達成できたこと、加えて定期試験問題は管理栄養士国家試験の問題に準じて作成したので、内容的には妥当であったと考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.5と、学生にとって満足度が低かったように思う。身近な生理現象や、病気などを例に挙げて問題提起をするよう心掛けていたが、学生同士で議論しまとめ、発表するという時間をとることができなかった。講義で使用したスライドおよび資料は全て本学ホームページ内にある「講義資料配布」システム上にアップロードしており、いつでもどこでもカラーの資料をダウンロードできる環境を整えていたにもかかわらず、予習・復習や自発学習を行っていない割合が多いのも反省点である。次年度に向けて、配布資料を前もって配ることのみならず、積極的に予習を促し、途中で小テストを入れるなどして、復習する動機づけを検討したい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	専門教育科目専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、知識理解度及び技能表現についてほとんどの学生が積極的に取り組んだものと判断できることから、概ね目標を達成できたと考える。講義時間中の質疑応答は、比較的自由に行えるようにしていたが、事例について学生同士でじっくり時間を取って検討し、発表する時間がなかった。今後、毎回の講義のねらいを具体的に示し、グループごとに討論する時間を設けたり、その内容を発表してもらうなど、学生がもっと参加する意欲が持てるよう努力していきたい。 配布物や講義の進行については、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度に向けて改善を行いたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生化学 I	1	後期	必修	いいえ	139

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①生化学という科目の本質上、講義では特に論理的思考を促すことに重点を置いている。一年時の選択科目「生活の中の化学」の内容との連動性を重視して講義を進めた。「化学」という単語が科目名についている時点で、多くの学生が苦手意識を持っていると考えられる。今年度の受験動機は、「必須科目である」93.2%、「資格取得に必要である」17.8%、次いで「単位数を確保する」6.8%であった。一方、「関心のある内容である」は、わずか1.7%であった。生化学を意欲的な動機から受講する学生がほばいない事実は、例年通りであり、最初から予想されたことであった。栄養学と生化学は、もともと起源を同一である科目であること、したがって、好むと好まざるに関わらず、栄養学を志すものは、この科目に真剣に取り組む必要があることを最初の講義で説明してから、以後の講義を進めた。 ②毎年、キーポイントやキーワードをまとめた資料を作成・改訂し、配布しているが、今年度はキーワード・キーポイント集を大幅に改訂、増頁して配布した。講義の前後、試験前に目を通した上で、教科書やノートを使って学習に取り組むことを促している。 ③講義に用いるスライドは、前年のものを見直した上で、必要な改訂を加えて用いた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成されなかった	どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終成績の平均点は61点、不合格者は再履修者を含めた受講者138名中50名(未受験者を含む)であり、合格率は、約64%と、低かった。優(80点以上)は16名、秀(90点以上)は10名、そのうち2人は満点であった。昨年同様、成績が高得点と低得点の両極端に分かれる傾向多見られた。100名の学生は、予習・復習ともに0～2回しか行っていないかった。試験問題は、基礎的知識や基礎的な思考力を問う問題を併せて約9割、やや高度な知識や思考力を要する問題を併せて約1割の割合で作成した。基礎問題だけでも十分に合格点を達成できるような問題作成を心掛けた。本年度の試験問題は、昨年同様、比較的優しいものとなった(まじめに取り組んだ再履修者からも、そのようなコメントを口頭で伝えられた)にも関わらず合格率が低かった。学生の受講態度は、比較的まじめではあるが、論理的に考えたり、理解しようとしたりする姿勢に欠ける傾向が見られた。予習復習が少なくても、せめて受講の際、できるだけ理解した上で覚える姿勢を促していきたい。今後は、すべての学生が、せめて講義中だけでも意欲的に学習に取り組むことを促して、全員合格を目指したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPでの位置づけは専門基礎科目であり、卒業必修かつ国家試験受験資格取得必修である。内容的には妥当と考えて講義を行ってきたが、平均点、合格点共に低かったので、講義中に質問や練習問題などを行い、理解度を確認することに努めたい。 ②DPでの位置づけは、知識理解、思考判断、および意欲関心を問う科目である。試験での知識理解、思考判断を問う問題の正解率は低かったが、内容の妥当性が低かったとは考えられない(講義内容は例年通りである)。学生に理解させる工夫は多いに必要であると考ええる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均点が、3.1と決して満足のいくものではなかった。説明の仕方、講義資料やスライドの図表および文章は、毎年見直しと改善を目指した改訂を行っているが、さらなる改善に取り組んでいく必要がある。その一方、学生にももう少し意欲的に受講してもらう必要があり、この点を以下に改善していくかを課題として、検討していきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本年度は、合格率、平均点とも昨年よりは向上したものの、満足行くレベルではなかった。本年度の学生の受講態度自体は、1年生、再履修者ともに全体としては、特に問題はなかった。受講意欲の向上を促す工夫が必要である。講義中または講義後に質問や発言をする学生は、例年通り少なかった。学生が理解しにくい箇所や、説明の仕方など、講義に還元できる情報を出来るだけ多く得て、それらを講義にフィードバックしていくために、学生が発言、質問する機会を増やしていく工夫をしていきたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品学 I	1	後期	必修	いいえ	80

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①当該科目は必須科目であり、また、管理栄養士国家試験受験資格取得のためには必要の科目であるため、受講動機は「必須科目」に集中することは当然のことと考える ②食品の栄養成分や嗜好性成分、機能性成分などについて修得する科目である。成分の構造や性質は多岐に渡るため、講義ごとに理解してほしいことを提示して講義を開始した ③特に、授業の復習が知識の定着に繋がることを学生に意識させたが、復習を全くしていないと答えた学生が50%であったため、復習に繋がる課題などを提示することを次年度に向けて検討したい
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績評価 最終的な成績平均値は69点であった。受講者数78名のうち再試対象者は23名であり、2名が再履修対象者となった。再試験後は97.4%(75名)が標準レベルに達し、そのうち理想的レベル(80点以上)に達したものは16%(12名)であった。成績評価から、9割以上が標準レベルに達していたが、再試験対象者が多い事や再履修者が2名いることから、目標達成状況は意欲関心以外を「やや達成した」と判断した。 ②授業アンケート 学習到達度の自己評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目で平均値が3.8と比較的高い結果を得た。しかしながら、授業の予習復習の面では「0回」と回答する学生が半数に上っている。この点うを改善する取り組みを取り入れ、さらなる知識の定着につなげたい					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性 本科目は「専門基礎分野」に配置されている科目である。食品が有する栄養成分の特性、嗜好的特性、生体調節に関する特性性など、管理栄養士・栄養士として食品に含まれる成分の基礎的知識を修得することは必須である。学生も一定の成績を収めていることから、内容的にも妥当であったと考える。 ② DPからみた内容の妥当性 成績評価から97.4%が標準レベルに達しており、基礎的な教養が身にについていると判断されるため、内容的にも妥当であったと考える
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」の項目では平均値が3.6であり、低くはないものの中央値を下回っていた。また、復習の時間が想定よりも少なかった。授業の説明に関しては、わかりにくい箇所は補足プリントを作成し授業を行ったが、それでも補うことができていなかった点は反省すべき点であった。次年度に向けて、学生がわからない箇所を教員が認識できるような対策を行い、理解度を高めていけるよう努めたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	「専門基礎科目」に位置づけされている科目であり、「食品成分」に関する幅広い知識の習得に繋がる教科である。97.4%が標準的なレベルに達しており、概ね達成できたと考える。しかしながら、「説明は理解しやすいものであった」の項目では中央値より低く、また、知識の定着に必要な復習の回数が「0回」が半数を占めていた。また、授業内で質問する時間を設けてはいるが、その時にすぐに質問が出づらいことが現状であった。これらを踏まえて、次年度には復習に繋がるための課題を検討し、口頭だけでなく、文書等でも質問等の意見を出せるように改善したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
解剖生理学実習	1	後期	必修	いいえ	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①正常な生命活動の仕組みについての理解を深めるため、解剖生理学の講義と並行して生命維持に不可欠な諸器官の構造と機能について、身体活動などと組み合わせる可能な限り身近な題材を用いて実習を行うようにした。 ②実習レポートは実習終了後一週間以内に提出をさせ、提出後1週間に以内にコメントを付して返却した。実習内容を忘れないうちにまとめることと、早い段階でのレポート返却により、学生がコメントを確認することで復習の機会が自然とできることを意図した。 ③骨及び筋の名称について小テストを行うことで、骨格系の知識の定着を図った。 ④1年次前期の実習科目であるので、コミュニケーションを円滑に行えるよう、実習の初めの4回は共同作業を行う紙製の骨格標本を8～10名で1体作成するようにした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価にて「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」という3項目について、「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な回答が100%を占めている。またその他の項目についても95%以上の学生が肯定的な回答をしていた。加えて、レポートは総じて大変良くできており、積極的に取り組んだ跡がうかがえた。図書館等の利用が非常に少ないが、実習時間中にスマートフォンなどを用いてインターネットを利用した情報検索を許可しているため、このような結果になったと思われる。 以上のことから、この科目で意図した教育目標はほぼ達成できたと考えられ、授業態度、レポート提出状況からも、この科目に多くの学生が主体的にかかわ多ことがうかがわれる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の「専門基礎分野」になり、必修科目である。実習で行った内容は解剖生理学の講義で学習したメカニズムを実際の自分たちの体で体験するという知識定着の役割も担っている。そのため、管理栄養士国家試験にも一定の割合で出題されており、専門的な医学系科目を学ぶための基礎知識を学習するものである。また、学生の成績も非常に良かったことから内容は妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標から見ての内容妥当性 「到達度自己評価」及び、実習の成績からみても学生は進んで熱心に取り組んでいたと評価したことから、目標をほぼ達成でき、内容は妥当であったと考えられる。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性に問題はないと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、「説明は理解しやすいものであった」という項目について「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な回答が100%を占め、そのほかの項目も95%以上の学生が肯定的な判断を下している。概ね、問題はなかったと判断できる。今年度はカリキュラム変更のため座学の解剖生理学が終わった段階でこの実習を行ったため、前期の座学の復習という形で知識の定着が吐かれたと考えている。 しかしながら、図書館にて本で調べるということがほとんどできていないことについても、何らかの対策を考えていきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	専門教育科目専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、知識理解度及び技能表現についてほとんどの学生が積極的に取り組んだものと判断できることから、概ね目標を達成できたと考える。 この科目は①人体を構成する主な骨と筋肉の名称を覚えること、②泌尿器、血液、循環器、呼吸器、感覚器などの実習を通して、生命体を構成するそれぞれの臓器の基本的な構造、働きについて説明できるようになること、③実験結果のまとめ、グラフ化、考察事項についての調査を通して、科学レポートの書き方を身につけることを目標に行ってきた。最終的な到達目標は、①～③を初学者に説明できるようになるという点に置いた。学生による授業評価とレポートの採点結果、また小テストの結果から見て、これらの到達目標は、ほぼ達成されたものと判断できる。 今後の課題としては、インターネットを用いて調べる際に、正しい情報を選び取る力を身につけてもらえるような工夫をしていきたいと考えている。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品学実験	1	後期	必修	いいえ	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①食品学Ⅰで修得した知識を、実験を通して再確認ならびに定着させることに重点を置いた。実験操作の基礎的方法を再確認する実験項目を実施後に、食品成分に関する実験に取り組んだ。これによって、知識だけでなく実験に必要な基本的操作方法の定着に繋がるものとする。 ②学生の受講動機は「資格取得に必要である」「単位数の確保」で約80%を占めた。管理栄養士、栄養士の免許取得には欠かすことのできない科目であるため、これらの回答率は妥当なものである。 「テスト範囲をもうすこし明らかにしてほしい」とのコメントがあったが、テスト範囲は授業内で行った項目すべてとした上で、テスト対策のポイントはしっかりと説明していることから、これ以上の必要はないと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績評価 受講者88名のうち再試験対象者は7名であったが、再試験で全員合格し、最終的な平均値は77点であった。全員が標準レベルに達し、そのうち理想的なレベルに達した者(80点以上)は34名(38.6%)であった。 ②アンケート評価 「判断力」「意欲」「技術の修得」に関する平均値3.8であつた。事前事後学習の回数では、「0回」と回答する学生が多いものの、4回以上の回答をしている学生も確認できた。レポート課題を課しているが、事後学習においては「0回」の学生が多いためレポートが必ずしも復習に繋がっているわけではないと考えられる。課題のあり方を検討していきたい。 成績評価ならびにアンケート評価を踏まえると、学生の目標は達成できたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「専門基礎分野」に配置されている科目である。食品学Ⅰで修得した知識を、実習を通して定着させ、さらには技術の修得も行うことができる科目であり、学生も一定の成績を収めているため、内容的にも妥当であると考えられる。 ② DPからみた内容的妥当性 成績評価から全員が標準レベルに達しており、専門的な知識や技術を修得できたと判断される。また、4～5名のグループで実習を行うことで、協調性やコミュニケーションなど、社会人としての基礎的な教養も身につくことから、内容的に妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の進め方 授業の実施にあたって、実験項目ごとに反応の仕組みについて講義を行い、操作方法については器具をつかってのデモンストレーションなども取り入れて、学生自身で流れを頭なの中で整理して取り組めるよう心掛けた。また、授業を進めて行く上で、濃度計算を苦手としている学生が非常に多かったため、練習問題を作成し解説する授業も取り入れた。以上のように、学生の状況を踏まえて、細かな指導を行いながら授業を進めた。 ②提出物の評価 レポートをしっかりと記載できていない学生が見受けられたため、レポートについての説明も数回取り入れた。このことから、学生の提出物に対する評価も高かったように思われる ③授業の質評価 「説明は理解しやすいものであった」の評価が3.9と高い結果をしめていたことから、今年度取り入れていたレポートに対する対応や学生が苦手とする箇所を補うための講義などを来年度も取り入れていきたいと考えている
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	今年度は成績評価ならびに学生のアンケート評価から、目標は達成されたと考えている。また、授業を進めて行く上で、追加して補足が必要と感じた点に関しては、次年度もシラバスの計画を基本としたうえで、追加の説明や講義などを取り入れて進めて行きたい。しかしながら、復習を目的にレポート課題を課していたにも関わらず復習の回数が「0回」の学生が多数みられたことから、課題に関しては、来年度に向けて改善していきたいと考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用調理学実習	1	後期	選択	はい	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①この科目は基本的な調理ができることを前提とし、さらに応用力を養う実習であるため、まずは調理技術を学生自身が実践し、実践力を身につけることが最も重要であると考えた。そのため出来るだけ多種類の料理を作る機会を与えるため、師範を簡単にし、講義内容はテキストでの説明とポイントのみに絞り、自ら考え作れるよう促した。 ②応用調理学ではあるが、1年前期に調理科学実験の講義が無いため、学生はただ料理を作ることしか知らず、それがなぜかという、科学的根拠を知る機会がない。そのため、調理科学的な内容を含み、また今後の大量調理などの実習も見据え、食品の重量や盛付重量の把握、調味料の計算なども実習内に取り入れた。 ③事前に予習をさせるため、前週にキーワードやポイントを中心とした予習課題を配布し、実習当日の始めに提出させた。 ④学生が自ら、多種のメニューを作れるよう、師範をすべて行わず、ポイントだけに絞るという実践優先の実習形式とした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績平均値は87±9.4点と標準レベルであった。この実習は実習後のレポート得点を加味するため、レポートの内容により、評価が左右された。理想レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達していたのは78名中67名であった。(79名中1名は退学)。このうち2名は不可だったため、追試となった。到達度自己評価の平均値と中央値を見ると、「自分なりの目標に達した」が3.9、4.0点、「知識を得た」が4.1、4.0点、「課題を検討する力を得た」が4.0、4.0点、「的確に判断する力を得た」は4.0、4.0点、「学びを深める意欲」4.1、4.0点、「技術を身につけた」が4.0、4.0点であった。授業の質の評価では、「説明は理解しやすいものだった」が4.0、4.0点との評価であった。以上のことより、1年後期の基礎調理から一貫して調理技術の習得に力を入れた結果、調理技術のレベルが向上し、自信と共に意欲の向上が伺われた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。しかし、入学当初の調理技術レベルの差を1年次の基礎調理学実習と2年次の応用調理学実習で埋めること、また、個人の調理技術レベルの差をなくす努力をしたい。この課題に応えるように技術テストを行うなどの工夫をし、学生も標準の調理技術を身につけていることから、内容的には妥当であると考えた。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 コメントや学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高く、自己啓発や研鑽しようとする態度が伺われた。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.9±4.0点であった。これは1人1人が献立作成を行い、グループワークにより班ごとのオリジナル献立を考え、デモンストレーションおよびプレゼンを行った結果であると考えられる。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」に位置づけするため、基礎的知識の形成については概ね達成できた。 ①初回は1年次の基礎調理実習の復習を踏まえた実習内容にする、②15週の中間でアンケートを取り、学生の要望や困っていることなどを早期に確認する、③学生の理解度を把握するために小テストや実技テストを行い、自主的に学習を心がけるよう指導する。④この学年は実習に出席したにもかかわらず、進路の変更や学業に対する悩みから、受験資格があるにも関わらず、定期試験を受けなかったり、試験勉強をせずに定期試験に臨んだ学生が数名見られた。実習に出席し、基本的な技術も身につけていたにも関わらず、進路や学業、精神的な問題等により単位を取得できなかった学生がいた。今後このような学生の対応を早急に行い、未然に防止するよう、何らかの対策が必要であると考ええる。⑤昨年度の学生と成績を比較すると、かなり低下していることが顕著である。学生のレベルに応じた技術指導や学習指導を心がけ、個人個人に対応した指導が必要であると感じられた。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎栄養学Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機に対する回答で、「必修科目である」が98.4%とほとんどの学生が必修であることを理解しているにもかかわらず、「資格取得に必要である」ことを自覚しているのはわずか9.8%であった。また、「関心のある内容である」と答えたものもわずか3.3%であった。栄養学の基礎的知識が、資格取得のための国家試験に必須であるだけでなく、管理栄養士の実践の場でも重要であることを、できるだけ具体的な事例を挙げて説明していきたい。 ②授業の最初に学習準備のため、オリエンテーションを行った。 ③後期の中頃に確認テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。 ④授業で使用するパワーポイントの資料は、常に修正し、よりわかりやすい内容となるようにしている。 ⑤授業内容を予習・復習するための練習問題および、分野別に分類した国試過去問約5年分とその解説を配付し、予習復習の助けとなるようにした。学生の要望に応えて、配付時期を例年より早めて11月とした。 ⑥2018年度より新カリキュラムが始まり、基礎栄養学Ⅰは開講時期が半期早まって1年後期より実施されることになった。基礎栄養と関連が深い生化学や解剖生理学の講義が1年前期より始まっているため、生化学や解剖生理学で学習したことが新鮮なうちに基礎栄養で復習できるという利点があった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値(100点満点)は、Aクラス77.3点(±17.1)、Bクラス76.5点(±18.3)、A、Bクラス合同で76.9点(±17.6)であった。80点以上のものはAクラス45.0%、Bクラス60.5%、70点～79点がAクラス37.5%、Bクラス21.1%、60点～69点がAクラス10.0%、Bクラス13.2%であった。昨年度と比べると、A、Bクラス合同の平均点で約4.9点増加し、80点以上の成績優秀者の割合も昨年度に比べて大きく増加していた(22%→53%)。 本試験の不合格者(60点未満)は、A、Bクラス全体で5名(6%;うち試験欠席2名、受験資格なし1名を含む)、忌引による欠席者1名で、昨年度(6名;8%)とほぼ同じであった。追再試験は3名が受験し、2名が受験手続なしであった。受験者は全員合格した。 授業評価アンケートの「到達度自己評価」では、各項目とも平均点が3.4点以上で、前期(2年生旧カリキュラム)より高得点であったので、概ね教育目標を達成できていると考えている。特に、例年得点の低い項目(8)「コミュニケーション力・表現力」が3.1から3.4に増加していたのは、今年度より授業の最後に、配付している練習問題に口頭で答えさせるようにしたことが効果があったのかもしれない。 また、項目(6)の「専門分野について学ぶ意欲」、及び、項目(7)の「専門分野の技術の習得」については、3.6点と比較的高い評価であった。 「学習量の評価」で、30分以上の予習または復習を複数回実施している学生が約30%で、昨年と同じレベルであった。今回は、練習問題や国試の過去問・解説を昨年よりも早期に配付し、日ごろの授業の予習復習に活用できるようにしたが、まだ十分とは言えない。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門基礎分野」であり、卒業必修及び管理栄養士国家試験受験資格取得に必修の科目である。国家試験に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えている。期末試験の成績においても、昨年に比べて、かなり良好な成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 本科目のDPである「知識理解」(DP1)および「思考判断」(DP2)の成績は昨年に比べてもおおむね良好に維持されていることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上より、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」において、項目(1)の「明解な評価基準」と項目(2)の「明確な学習の範囲と課題」が昨年より高得点(3.3→3.4)であった。また、(4)「授業中の学生の発表・参加」、(5)「学生からの質問の受付とそれに対する回答」の項目も、昨年に比べて0.1～0.2ポイント高得点であった。これは、授業の最後に練習問題を出して、学生に解かせ、答えさせ、質問させる時間を設けたことが好結果につながったものと思われる。以上、十分な高評価とは言えないが、学生の成績と併せて判断すると、授業の目標はおおむね達成できたのではないと思われる。項目(3)の「説明の理解しやすさ」は、昨年より0.1ポイント下がっていたが、例年指摘される早口になる点などを改善し、より分かりやすい説明を心掛けるよう努力したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	期末試験の成績および到達度自己評価からみて、基礎的知識の形成については概ね達成できていると思われる。これからは、基礎的知識を実践現場に活かせるように、できるだけ実際の事例に関連付けながら講義を進めていきたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養学概説	1	後期	必修	はい	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①栄養学概説は、栄養学科1年次に2018年度から新規開講された科目であり、2年次からの専門基礎および専門科目を学ぶ前の導入教育の意味も含む卒業および管理栄養士受験資格必修の科目である。よって受講動機は「必修科目である」が100%であることは当然の回答である。「関心のある内容である」が4.3%と低いことに関しては、学生の関心をひきつけるような講義の実施が出来なかったことも推察されるため、講義内容の見直しも図りつつ、この科目を2年次から学ぶ専門基礎および専門科目へ繋ぐことが出来るように、学生の学修レベルにも配慮しながら、学生に関心をもって講義に臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある。 ②栄養学概説は、「日本食品標準成分表」に関する講義と、「日本人の食事摂取基準」に関する講義の二本立ての科目である。3人の教員によるオムニバス講義であるが、3教員ともスライド資料を配付し、その資料には、ポイントが理解できるようにする、板書を書き写すためのスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。さらに教員は食品成分表や食事摂取基準などの講習会に参加し、最新の情報を学生たちに提供できるように努力している。「食事摂取基準」の講義では、毎回の授業終了前に、その日の講義の復習小テストを行い、解説して、提出させている。その小テストには、授業理解度を%で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見や質問が記入されており、それに必ず返答して返却するよう努力している。学生からの意見に「難しかった」との回答が多く見られたため、次年度以降は学生たちの学修レベルの把握をしながら講義の進行をしていく必要がある。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果はA,Bクラス80名の受講生中、A(秀)が0名で、B(優)が6.4%であり、C(良)が17.9%であった、D(可)が34.6%と高く、不可の学生が41%ととても多かった。受講生の約40%が標準的レベルに至っておらず、講義内容や試験方法の見直しも含め、学修レベルの改善を行う必要がある。一方で、学習到達度の自己評価においては、講義への関心の高さがうかがえ、この科目を「的確に判断する力を得ることができた」、「学びを深めたいという意欲を持つことができた」との回答が多かった。この自己評価結果と試験結果との間に整合性は見られないため、試験結果からは読み取ることの出来ない学生たちの関心がこの科目に向けられていることが考えられた。これらの評価結果から今年度のこの科目のDPの達成は「どちらともいえない」と回答する。学習量の評価では、約43%の学生が予習および復習を一度もしていないかった。シラバスを活用し、予習・復習を促すことは実施したが、他の教科の課題との関連もあり、学習時間を設けることが難しいことが考えられるため、学習時間の確保に関しては学科全体で検討していく必要がある。またこれからも小テストを実施し、この返却による復習の促しを続けていきたいと考えている。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生が少なかった。特に図書館の利用に関しては、自主的学修のためにも学生に勧めていく必要性がある。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また基礎栄養学とともに、管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の中の応用栄養学の項目の1つに位置している。また、2年次からの専門基礎および専門科目へのつなぎの科目(基礎から専門への入り口科目)でもあると考える。このことから、受講動機の「必修科目である」が100%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度からは、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価では、約43%の学生が予習、復習を一度もしていないと回答した。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にしなかった学生は53%と高かった。必修科目であるため、シラバスを参考にしなくとも、本科目の履修は卒業条件だというのが学生たちにあると考えられる。また、講義の初回にシラバスを配付し、一緒に目を通しているため、その後にシラバスを参考にする必要がなくなったことも考えられる。今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していき、常にシラバスを参考にするように促していく。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す予定である。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、かつ、2年次の専門基礎および専門科目へのつながりにあたる科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価から、概ね全てのDPを達成できたものとする。しかし試験結果からはDPを達成できたとは考えられないため、学生の学修レベルの把握を行いながら講義を展開していくことを考える。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。これからも講義時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。今回の授業評価の提出率は88%と低く、提出率の向上のための対策も必要と感じた。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
調理師論	1	前期	選択	いいえ	69

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①管理栄養士国家試験関連科目とは異なり、受講動機は、「関心のある内容である」について比較的高い数値を示した。 ②本科目は、今年度、初めて開講した科目である。開講した目的は、「学生の管理栄養士就職試験に役立つ調理師資格取得を支援する」とこと、「高学年で学ぶ管理栄養士専門科目全般を包括する初歩的内容であり、今後の学習を円滑に進めるため基礎を養う」の2点である。 ③新年度は、試みとして、調理師試験の過去問題集をテキストとして、授業を実施した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①今年度の受講者の状況 登録された受講者数69名に対して、予想を遥かに超える59名もの学生が受講した。夏期講習であり、これほど大勢の学生が受講することは、該当学年の、進路に対する意識、および、学習意欲が高いことの表れである。 ②評価結果 受験者59名全員が本試で合格した。成績は、平均点が83.0、秀55名、優4名と、極めて優れた結果であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門選択」であり、かつ、夏期集中で実施するため、もともと受講生の学習意欲が高く、質の高い成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から見て「知識理解」について十分満足いける結果が得られた。成績の質が高いことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	配布物が多いため、配布された順番がわからなくなる学生が観られたので、この点を途中で改良した。具体的には、配布物に配布した順番を示す番号をつけた。次 年度からは、配布物一覧表を、授業開始時にシラバスと併せて配布して対応したい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	①本科目の開講目的である、調理師受験のための知識養成、受験の動機づけ、今後の管理栄養士専門科目受講のための基礎的知識の形成については、概ね達 成できた。 ②過去問題集をテキストとしたため、受講生だけでなく、授業を実施する側にも負担が大きかったので、次年度は、専用の参考書をテキストとして採用してみたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度後期

学科	栄養学科
氏名	長藤 信哉

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
薬事法規概論	1	前期	選択	いいえ	65

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機の「関心のある内容である(24%)」が、栄養学科平均値(6.1%)と比べて高い数値を示した。 ②本科目の開講した目的は、「学生の就職に役立つ登録販売者資格取得を支援する」ことであり、今年度、初めて開講した科目である。 ③登録販売者資格試験を受験しない学生にも、一般教養としてのセルフメディケーションの知識を高めてもらうために、身近な話題を取り入れた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①今年度の受講者の状況 登録された受講者数65名に対して、予想を超える53名もの学生が受講した。夏期講習であり、これほど大勢の学生が受講することは、該当学年の、進路に対する意識、および、学習意欲が高いことの表れである。 ②評価結果 受験者53名全員が本試で合格した。成績は、平均点が84.0、秀24名、優12名、良9名、可8名と、優れた結果であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門選択」であり、かつ、夏期集中で実施するため、もともと受講生の学習意欲が高く、質の高い成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から見て「知識理解」について十分満足いける結果が得られた。成績の質が高いことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「学習量の評価:授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」として「時間が無いため」や「何をしたらよいかわからなかった」が見受けられた。3日間連続の集中講義の為、時間が無いのは仕方ない部分もあるが、次年度からは、帰宅後にどのような予習や復習を行うかを具体的に指示していきたいと思う。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	①本科目の開講目的である、登録販売者受験のための知識養成、受験の動機づけ、一般教養としてのセルフメディケーションの基礎的知識の形成については、概ね達成できた。 ②5限続けての講義の為、途中集中力が切れる学生のために、さらに授業に工夫を凝らし、飽きさせないように心掛けたいと思う。
------------------------------	---